

文学部専門科目

日本語日本文学科

(授業科目名五十音順)

科目名	基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上		演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大学で学ぶための技法を習得し、それらを用いて、問題を解明したり論述をまとめたりする、思考力、表現能力を育成する。				
[授業概要] まず、大学で学ぶことの意義を理解する。次に、与えられた課題の解明にグループで取り組む。それぞれの意見を表明するために、文献資料やデータを収集し、分析し解釈をまとめ、発表する。後半は、そこで習得した問題設定の仕方・資料の収集・解釈の方法などを用い、課題に対して一人ひとりがレポートをまとめる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 板書を書き写すのではなく、自分で工夫してノートを作成し、そのノートを読んで授業内容を理解し、次回の授業に備えておく。 日頃から日本語、日本文学の話題に関心を持つ。				
[授業計画] 1. はじめに―大学で学ぶとは 2. ノートをとる 辞書で調べる 3. 図書館を利用する 4. グループ研究1―課題を検討する 5. グループ研究2―資料・データを収集する 6. グループ研究3―レジュメを作成する 7. グループ研究4―発表 8. 課題文・レポートを書く 9. 文を読み、要旨をまとめる 10. テキストを読み解く 11. テキストから問題点を発見する 12. 資料・データの収集 論文の構成 13. 解釈をまとめる				

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(40%)、課題文を要約した文章(10%)、3000字程度のレポート(50%)を総合して判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等は、後日添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:なし 大学から配布する『レポート執筆の基礎』を使用することがある。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)] 書籍名:適宜紹介する。レポートの課題図書は図書館にも常置している。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし			

S20040 [LJH1-005]

科目名	基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上		演習	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大学で学ぶための技法を習得し、それらを用いて、問題を解明したり論述をまとめたりする、思考力、表現能力を育成する。 [授業概要] まず、大学で学ぶことの意義を理解する。次に、与えられた課題の解明にグループで取り組む。それぞれの意見を表明するために、文献資料やデータを収集し、分析し解釈をまとめ、発表する。後半は、そこで習得した問題設定の仕方・資料の収集・解釈の方法などを用い、課題に対して一人ひとりがレポートをまとめる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 板書を書き写すのではなく、自分で工夫してノートを作成し、そのノートを読んで授業内容を理解し、次回の授業に備えておく。 日頃から日本語、日本文学の話題に関心を持つ。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。 [授業計画] 1. はじめに―大学で学ぶとは 2. ノートをとる 辞書で調べる 3. 図書館を利用する 4. グループ研究1―課題を検討する 5. グループ研究2―資料・データを収集する 6. グループ研究3―レジュメを作成する 7. グループ研究4―発表 8. 課題文・レポートを書く 9. 文を読み、要旨をまとめる 10. テキストを読み解く 11. テキストから問題点を発見する 12. 資料・データの収集 論文の構成 13. 解釈をまとめる				

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(40%)、課題文を要約した文章(10%)、3000字程度のレポート(50%)を総合して判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等は、後日添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、3000字程度のレポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20041 [LJH1-005]

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	安原 順子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

大学で学ぶための技法を習得し、それらを用いて、問題を解明したり論述をまとめたりする、思考力、表現能力を育成する。

[授業概要]

まず、大学で学ぶことの意義を理解する。次に、与えられた課題の解明にグループで取り組む。それぞれの意見を表明するために、文献資料やデータを収集し、分析し解釈をまとめ、発表する。後半は、そこで習得した問題設定の仕方・資料の収集・解釈の方法などを用い、課題に対して一人ひとりがレポートをまとめる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。

板書を書き写すのではなく、自分で工夫してノートを作成し、そのノートを読んで授業内容を理解し、次回の授業に備えておく。日頃から日本語、日本文学の話題に関心を持つ。

[授業計画]

1. はじめに—大学で学ぶとは
2. ノートをとる 辞書で調べる
3. 図書館を利用する
4. グループ研究1—課題を検討する
5. グループ研究2—資料・データを収集する
6. グループ研究3—レジュメを作成する
7. グループ研究4—発表
8. 課題文・レポートを書く
9. 文を読み、要旨をまとめる
10. テキストを読み解く
11. テキストから問題点を発見する
12. 資料・データの収集 論文の構成
13. 解釈をまとめる

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	安原 順子		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(40%)、課題文を要約した文章(10%)、3000字程度のレポート(50%)を総合して判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等は、後日添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章)、レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:なし、大学から配布された『レポート執筆の基礎』を使用することがある。著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:知へのステップ 著者名:学習技術研究会 出版社名:くろしお出版 ISBN:9784874247891			

S20042 [LJH1-005]

科目名	基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上		演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大学で学ぶための技法を習得し、それらを用いて、問題を解明したり論述をまとめたりする、思考力、表現能力を育成する。				
[授業概要] まず、大学で学ぶことの意義を理解する。次に、与えられた課題の解明にグループで取り組む。それぞれの意見を表明するために、文献資料やデータを収集し、分析し解釈をまとめ、発表する。後半は、そこで習得した問題設定の仕方・資料の収集・解釈の方法などを用い、課題に対して一人ひとりがレポートをまとめる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 板書を書き写すのではなく、自分で工夫してノートを作成し、そのノートを読んで授業内容を理解し、次回の授業に備えておく。 日頃から日本語、日本文学の話題に関心を持つ。				
[授業計画] 1. はじめに―大学で学ぶとは 2. ノートをとる 辞書で調べる 3. 図書館を利用する 4. グループ研究1―課題を検討する 5. グループ研究2―資料・データを収集する 6. グループ研究3―レジュメを作成する 7. グループ研究4―発表 8. 課題文・レポートを書く 9. 文を読み、要旨をまとめる 10. テキストを読み解く 11. テキストから問題点を発見する 12. 資料・データの収集 論文の構成 13. 解釈をまとめる				

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(40%)、課題文を要約した文章(10%)、3000字程度のレポート(50%)を総合して判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート等は、後日添削して返却する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、課題文を要約した文章、レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:なし 大学から配布する『レポート執筆の基礎』を使用することがある。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)] 書籍名:適宜紹介する。レポートの課題図書は図書館にも常置している。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし			

S20043 [LJH1-005]

科目名	基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上		演習	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大学で学ぶための技法を習得し、それらを用いて、問題を解明したり論述をまとめたりする、思考力、表現能力を育成する。				
[授業概要] まず、大学で学ぶことの意義を理解する。次に、与えられた課題の解明にグループで取り組む。それぞれの意見を表明するために、文献資料やデータを収集し、分析し解釈をまとめ、発表する。後半は、そこで習得した問題設定の仕方・資料の収集・解釈の方法などを用い、課題に対して一人ひとりがレポートをまとめる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 板書を書き写すのではなく、自分で工夫してノートを作成し、そのノートを読んで授業内容を理解し、次回の授業に備えておく。 日頃から日本語、日本文学の話題に関心を持つ。				
[授業計画] 1. はじめに―大学で学ぶとは 2. ノートをとる 辞書で調べる 3. 図書館を利用する 4. グループ研究1―課題を検討する 5. グループ研究2―資料・データを収集する 6. グループ研究3―レジュメを作成する 7. グループ研究4―発表 8. 課題文・レポートを書く 9. 文を読み、要旨をまとめる 10. テキストを読み解く 11. テキストから問題点を発見する 12. 資料・データの収集 論文の構成 13. 解釈をまとめる				

科目名	基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル	日本語能力の向上	演習	
担当者	橋本 礼子		

〔 成績評価方法 〕

発表・質疑応答等(40%)、課題文を要約した文章(10%)、3000字程度のレポート(50%)を総合して判定する。

〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕

レポート等は、後日添削して返却する。

〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 メールアドレス 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕

学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 発表・質疑応答・課題・レポート

〔 教科書(ISBN) 〕

書籍名: レポート執筆の基礎 著者名: 出版社名: 神戸女子大学 ISBN:

〔 参考書(ISBN) 〕

書籍名: 知へのステップ 著者名: 学習技術研究会 出版社名: くろしお出版 ISBN: 9784874247891

S20044 [LJH1-005]

科目名	近現代文学講読Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	梶井基次郎の諸作品を読む		講義	
担当者	水川 布美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本近代文学を研究する際の基礎的作業を身に付け、作品をより深く理解できるようになる。				
[授業概要] 発表から100年、梶井基次郎の「檸檬」をはじめとする諸作品を読む。高校の国語教科書に採用されることもある「檸檬」やその他の作品を取り上げ、文学研究の基礎を学ぶ。具体的には、作品発表の背景(作家自身の背景、時代背景、文芸思潮等)を踏まえつつ、作品分析(主題、原典、作品構造、技巧等の考察)を行い、同時代の評価、その後の展開、先行研究の検討等、多角的な考察を試み、作品を読み解く。さらに映像資料を鑑賞し、原作との相違を考察する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回、作品内容に関する意見を問う課題を出しますので、〆切までに提出して下さい。提出された意見は、名前を伏せて公開します。他の履修生の多様な考察・分析を読み、自身の見解と比較して、さらに考察を深めて下さい。提出された意見に関するコメントは、次の授業内で行います。また、作品を予め読んでおいて下さい。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. ガイダンス・梶井基次郎について 2. 「城のある町にて」ある午後 読解 3. 「城のある町にて」手品と花火 読解 4. 「城のある町にて」病気・勝子 読解 5. 「城のある町にて」昼と夜・雨 読解 6. 「Kの昇天」 読解 7. 「冬の日」一～三 読解 8. 「冬の日」四～六 読解 9. 「桜の樹の下には」「器楽的幻覚」 読解 10. 「蒼穹」「闇の絵巻」 読解 11. 「檸檬」 読解 12. 映像資料視聴・解説 13. まとめ・梶井作品について復習				

科目名	近現代文学講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	梶井基次郎の諸作品を読む	講義	
担当者	水川 布美子		
[成績評価方法] 試験(60%)、提出物を含む受講態度(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の提出物については、次週、解説を行います。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 [教科書(ISBN)] 書籍名:檸檬 著者名:梶井基次郎著 出版社名:新潮社 ISBN:9784101096018 [参考書(ISBN)]			

科目名	近現代文学講読Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	三島由紀夫の諸作品を読む		講義	
担当者	水川 布美子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本近代文学を研究する際の基礎的作業を身に付け、作品をより深く理解できるようになる。				
[授業概要] 生誕100年、三島由紀夫の「憂国」他、諸作品を取り上げ、文学研究の基礎を学ぶ。具体的には、作品発表の背景(作家自身の背景、時代背景、文芸思潮等)を踏まえつつ、作品分析(主題、原典、作品構造、技巧等の考察)を行い、同時代の評価、その後の展開、先行研究の検討等、多角的な考察を試み、映像資料も交えて作品を読み解く。著者自身の解説の妥当性を検討し、再評価したい。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回、作品内容に関する意見を問う課題を出しますので、〆切までに提出して下さい。提出された意見は、名前を伏せて公開します。他の履修生の多様な考察・分析を読み、自身の見解と比較して、さらに考察を深めて下さい。提出された意見に関するコメントは、次の授業内で行います。また、作品を予め読んでおいて下さい。各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. ガイダンス・三島由紀夫について 2. 「詩を書く少年」前半 読解 3. 「詩を書く少年」後半「卵」1 読解 4. 「卵」2～最後 読解 5. 「海と夕焼」読解 6. 「橋づくし」前半 読解 7. 「橋づくし」後半 読解 8. 「百万円煎餅」前半 読解 9. 「百万円煎餅」後半 読解 10. 「憂国」壺・貳・参前半 読解 11. 「憂国」参後半・肆前半 読解 12. 「憂国」肆後半・伍 読解 映像資料視聴 13. まとめ・三島由紀夫諸作品について復習				

科目名	近現代文学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	三島由紀夫の諸作品を読む	講義	
担当者	水川 布美子		
[成績評価方法] 試験(60%)、提出物を含む受講態度(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回の提出物については、次週、解説を行います。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 毎回の小テストや提出物、最終試験で評価します。 [教科書(ISBN)] 書籍名:花ざかりの森・憂国 著者名:三島 由紀夫 出版社名:新潮社 ISBN:9784101050416 [参考書(ISBN)]			

科目名	近現代文学特講 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・近現代文学研究に必要な専門知識を身につけ、さまざまな角度から作品を読み込むことができるようになる。 ・文学作品に対して、手順を踏んで、自分自身の問題点を見つけ、適切に分析・考察を行えるようになる。 [授業概要] 日本近現代の様々な作品を読み解く。近現代文学作品を書いた女性・書かれた女性に着目して、主に明治大正期の作品を読む。主に、伊澤みゆき(伊東英子)と北村透谷の作品を取り上げる。本文・雑誌メディア・表現・時代背景・関連する他作品に目を配って、作品を読んでいく。同時代資料や先行作品、先行論文等も、読むことになる。授業の中で意見を述べ合うこともあり、小レポートに調査結果や意見を書くこともある。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて四時間程度。 ・配布される授業の資料を読み、前もって必要な作業を行っておく。 ・授業で指示された学習を行い、学んだ内容を復習する。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。 [授業計画] 1. 女性作家と少女小説:導入 2. 女性作家と初期少女雑誌・少女小説 3. 女性作家の軌跡:伊澤みゆき 4. 女性作家の作品を読む 5. 女性作家の作品と論文 6. 近現代文学における母親①:さまざまな母親 7. 近現代文学における母親②:「不如帰」「文学的自叙伝」等 8. 北村透谷「鬼心非鬼心」①:本文読解 9. 北村透谷「鬼心非鬼心」②:表現 10. 北村透谷「鬼心非鬼心」③:時代背景 11. 北村透谷「鬼心非鬼心」④:関連する他作品等 12. 北村透谷「鬼心非鬼心」⑤:論文 13. 近現代文学作品を書いた女性・書かれた女性				

科目名	近現代文学特講 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(30%)、最終レポート(70%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	近現代文学特講Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・近現代文学研究に必要な専門知識を身につけ、さまざまな角度から作品を読み込むことができるようになる。 ・文学作品に対して、資料を参照し、手順を踏んで読み解くことができるようになる。自分自身の問題点を見つけて、分析・考察を行えるようになる。 [授業概要] 近現代作家の様々な作品を読み解く。主に、明治期や昭和戦時下の文学作品における表現を、「子ども」や時代に注目して読み解く。本文・表現・時代背景・関連する他作品等に目を配って、作品を読んでいく。同時代資料や先行作品、先行論文も、読むことになる。授業の中で意見を述べ合うこともあり、小レポートに意見を書くこともある。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて四時間程度。 ・配布される授業の資料を読み、前もって必要な作業を行っておく。 ・授業で指示された学習を行い、学んだ内容を復習する。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。 [授業計画] 1. 明治の文学に描かれた子ども: 導入 2. 樋口一葉「たけくらべ」①: 本文読解・表現 3. 樋口一葉「たけくらべ」②: 時代背景 4. 樋口一葉「たけくらべ」③: 一葉の日記 5. 樋口一葉「たけくらべ」④: 一葉の他作品 6. 樋口一葉「たけくらべ」⑤: 論文 7. 近現代文学に描かれた戦時下の生活 8. 太宰治「たずねびと」①: 本文読解 9. 太宰治「たずねびと」②: 時代背景 10. 太宰治「たずねびと」③: 表現 11. 太宰治「たずねびと」④: 同時代作品 12. 太宰治「たずねびと」⑤: 論文等 13. 文学と時代				

科目名	近現代文学特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(30%)、最終レポート(70%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	芸能史 I	前期	2 単位
サブタイトル		メディア(講義)	
担当者	長田 あかね		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	manabaを利用した小レポートとミニツツペーパーの提出・評価と、manabaおよび授業内でのフィードバック。	実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 1.古代・中世芸能史に関する基礎的かつ専門的な知識を習得し、その概要を体系的に説明できるようになる。 2.古代・中世に行われた諸芸能について理解を深め、各々の特質を説明できるようになる。 [授業概要] 【メディア授業】 現代に続く、さまざまな日本の古典芸能の母胎となった古代・中世芸能の歴史を、当時の社会・宗教・文化的背景を交えながら、個々の芸能の特質とともに概説する。芸能への理解を深めるため、映像資料や画像資料などを使って、なるべくビジュアルに授業を展開する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 【予習】高校の日本史の教科書などで、奈良時代から室町時代までのおよそ流れを復習しておく。 【復習】小レポートとミニツツペーパーの中で、授業内容に関係する質問や課題を出すので、必ず復習しておく。 各回、予習復習合わせて4時間程度を要する。 [授業計画] オンライン授業(13回目のみ対面授業) 1.芸能とは何か 2.古代の仮面劇―伎楽 3.雅楽の伝来と展開①歴史 4.雅楽の伝来と展開②種類と特色 5.古代の雑芸―散楽 6.さまざまな音曲―今様・平曲など 7.語りと舞の芸能―曲舞と幸若舞 8.田楽の種類と芸態 9.能の形成と展開①猿楽と翁 10.能の形成と展開②観阿弥・世阿弥 11.能の形成と展開③世阿弥以後 12.狂言の形成と展開 13.古代・中世芸能史に関する復習と理解度の確認			

科目名	芸能史 I	前期	2 単位
サブタイトル		メディア(講義)	
担当者	長田 あかね		
[成績評価方法] 授業毎のミニッツペーパー(10%)、小レポート(40%)、試験(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・小レポートはmanabaを活用し、採点后、コメントとともに返却します。また、適宜、授業中に解説を行います。 ・ミニッツペーパーはmanabaから提出し、授業内でフィードバックを行います。 ・試験の解答と解説は、manabaにて公開します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 試験、小レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 試験、小レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 試験、小レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験、小レポート、ミニッツペーパー 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験、小レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験、小レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:講義時にレジュメ・資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)]			

S21400 [LJH2-011]

科目名	芸能史Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 浄瑠璃の発生と展開についての知識を習得する。 [授業概要] 語り物として街道筋などで語られていた時代から、都市における劇場演劇として上演される時代に至る浄瑠璃の歴史を、それぞれの時代の芸能環境をふまえて、概観する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各時間の内容をよく理解して、次回の確認テストに臨むこと。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。 [授業計画] 1.『浄瑠璃御前物語』 2.座頭の語り 3.操りとの結合 4.寛永の浄瑠璃 5.金平浄瑠璃 6.江戸の浄瑠璃 7.上方の浄瑠璃 8.加賀掾の浄瑠璃 9.角太夫の浄瑠璃 10.竹本座旗揚げ 11.近松の作者署名 12.元禄の興行界 13.『菅根崎心中』前後				

科目名	芸能史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] 確認テスト(50%)、まとめ試験(50%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・確認テストは評価後、授業中に返却し、解説をする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 確認テスト、まとめ試験 [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	言語学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル	言語とは何か、言語学における基本的知識	講義	
担当者	中村 英江		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

言語とは何か、どのような特徴をもつのか、また言語学とはどのような学問か、どのような分野があり、どのような術語が用いられているのかなど、言語学の基本事項について理解する。

[授業概要]

私たちが言語を学ぶ際には、その運用能力を養うことに加え、その言語の歴史や、音声的特徴・語構造・文構造など、その言語の背景的知識を学ぶことも重要である。
この授業ではまず、言語学の入門講座として、言語学とはどのような学問か、言語の構造や特性は何か、世界にはどのような言語があるのかといったテーマで、講義を行う。「言語学概論 I」では、主に英語を中心に取り扱い、言語の歴史、言語構造の基本的知識を学習することで、言語学の基本事項について要点を整理しつつ解説する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

※各回、予習復習合わせて4時間程度

復習:授業中の練習問題を中心に復習する。

予習:参考書を用いて、各回で扱うトピックの該当箇所を読み、自分なりの不明点や疑問点を明らかにしておくことが望ましい。

[授業計画]

1. オリエンテーションおよび導入授業—言語学とは何か、言語学研究の意義
2. 言語の歴史
3. 音声学・音韻論(1)
4. 音声学・音韻論(2)
5. 形態論・統語論(1)
6. 形態論・統語論(2)
7. 意味論(1)—日本語と英語を題材に
8. 意味論(2)—日本語と英語を題材に
9. 語用論(1)
10. 語用論(2)
11. 世界の英語—英語のヴァリエーション(1)
12. 世界の英語—英語のヴァリエーション(2)
13. まとめ

科目名	言語学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル	言語とは何か、言語学における基本的知識	講義	
担当者	中村 英江		
[成績評価方法] ・授業内の取り組み(小テストやディスカッション等): 30% ・授業内や授業後に提出する課題: 30% ・最終試験: 40 % [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題: 次の回の冒頭に解説やフィードバックをおこなう。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)] 書籍名: はじめての英語学〈改訂版〉 著者名: 長谷川瑞穂 編著 大井恭子 著 木全睦子 著 森田 彰 著 高尾享幸 著 出版社名: 研究社 ISBN: 9784327401658 書籍名: 日本語教師のための言語学入門 著者名: 小泉保 出版社名: 大修館書店 ISBN: 9784469220919 書籍名: 言語学の教室 著者名: 西村義樹／野矢茂樹 出版社名: 中公新書 ISBN: 9784121022202 書籍名: 言語世界地図 著者名: 町田健 出版社名: 新潮社 ISBN: 9784106102660			

S21600 [LJH2-015]

科目名	言語学概論Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	言語学の諸分野、世界の諸言語について学ぶ		講義	
担当者	中村 英江			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 実例を概観しながら、言語学の基礎的用語や概念への理解を深める。				
[授業概要] 私たちが言語を学ぶ際には、その運用能力を養うことに加え、その言語の背景的知識について学ぶことも重要である。「言語学概論Ⅱ」では、「言語学概論Ⅰ」に引き続き、英語と他言語(主に日本語)を比較しながら客観的に観察する。言語学の入門講座として「言語学概論Ⅱ」では、授業の前半を使って、意味解釈に関する理論を概観し、人間の認知と意味拡張の関わりや、会話においてコンテキストの情報が意味解釈に与える影響について考察する。授業の後半では、言語と文化の関わりや、社会言語学的観点から学習し、具体的な例を紹介しながら概観し、要点を整理しつつ解説する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ※各回、予習、復習合わせて4時間程度 復習:授業中の練習問題を中心に復習する。 予習:事前配布する講義資料や参考書などの資料を読み、自分なりの不明点や疑問点を明らかにしておく。				
[授業計画] 1. オリエンテーションおよび次週への導入(文構造の分析(1)) 2. 文構造の分析(2) 3. メタファーとメトニミー 4. 法助動詞と主観性 5. 名意と暗意 6. 会話におけるルール 7. まとまりのある文章 8. 新情報と旧情報 9. 異文化間におけるコミュニケーション 10. ことばと文化 11. ことばと社会(1) 12. ことばと社会(2) 13. まとめ				

科目名	言語学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	言語学の諸分野、世界の諸言語について学ぶ	講義	
担当者	中村 英江		
〔 成績評価方法 〕 ・授業内の取り組み(小テストやディスカッション等):30% ・授業内や授業後に提出する課題:30% ・最終試験40% 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 課題: 次の回の授業の冒頭で解説やフィードバックをおこなう。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み、課題、最終試験で評価 〔 教科書(ISBN) 〕 〔 参考書(ISBN) 〕 書籍名: はじめての英語学〈改訂版〉 著者名: 長谷川瑞穂 編著 大井恭子 著 木全睦子 著 森田 彰 著 高尾享幸 著 出版社名: 研究社 ISBN: 9784327401658 書籍名: 言語世界地図 著者名: 町田健 出版社名: 新潮社 ISBN: 9784106102660 書籍名: 言語学の教室 著者名: 西村義樹／野矢茂樹 出版社名: 中公新書 ISBN: 9784121022202 書籍名: 日本語教師のための言語学入門 著者名: 小泉保 出版社名: 大修館書店 ISBN: 9784469220919			

S21610 [LJH2-016]

科目名	国語科指導法Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	「よくわかる国語の授業」をめざして		講義	
担当者	島田 哲朗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] 国語の授業が目指している「話す・聞く・読む・書く」能力を培う授業を展開するために教材の研究・授業計画の立て方、および学習指導案の書き方を学び、模擬授業での実践、経験する。				
[授業概要] 中学校及び高等学校国語科の目標および内容について、適宜、国語の成り立ち、仮名遣い、近代以降の国語教育の変遷等に関する言及をふまえつつ、現代の国語科教育の目的・内容・方法について学習指導要領を参考にしながら学習する。中学・高校の現行の教科書に採用されている代表的教材を取り上げ、特に高等学校「国語総合」の内容に沿った授業指導案作成(学習目標・授業展開・評価方法等)の基本的な方法を学んでいく。又、教材研究及び授業展開の方法に於いては情報通信機器の有効な利用法を実践的に理解し、授業設計に活用できることを目指す。受講者全員が、それぞれの教材について20分～30分程度の模擬授業を実践し、国語の授業を実体験する。 授業の進度に応じて参考文献の読書課題を課す。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ○各回、予習復習合わせて4時間程度。 ○古典的、現代的を問わず様々な分野の書籍を数多く読むことで、授業を実践する教員にとって読むという行為がいかに大切かを知る。 ○辞書を引くことを習慣化し、常用漢字、古語、外来語など基本的な国語力を身につける意識を持つ。				
[授業計画] 1. 日本語の成立と変遷1:奈良時代・平安時代(上代・中古)の伝統的な言語文化に関して 2. 日本語の成立と変遷2:鎌倉時代以降江戸時代(中世・近世)までの伝統的な言語文化に関して 3. 国語の成立と変遷:明治の言語文化に関して。(漢文訓読体・言文一致・国語教育の始まりについて) 4.学習指導要領解説。アクティブ・ラーニングの方法と実践。学習指導案作成と模擬授業及び、情報通信機器による授業展開、いわゆるICTの授業での活用方法について 5. 教材研究(現代文)と学習指導案作成と受講者による模擬授業①(教材ごとの模擬授業担当はあらかじめグループ分けし、教材研究、発表等、協力し合って実施します。模擬授業用の教材は「羅生門」を予定しています。それぞれの時間で、グループの代表2人から3人の「模擬授業」を行い、その後、受講者相互による感想、討議を行う予定です。6限～8限は教材の進行に従い模擬授業担当者が変わっていきます。古典の授業も同様です。) 6. 教材研究(現代文)と学習指導案作成と模擬授業② 7. 教材研究(現代文)と学習指導案作成と模擬授業③ 8. 教材研究(現代文)と学習指導案作成と模擬授業④ 9. 教材研究(古典)と学習指導案作成と模擬授業⑤(教材は「伊勢物語」・「論語」予定しています。模擬授業の方法は上に記した「現代文」と同様で、毎回担当者が変わります。) 10. 教材研究(古典)と学習指導案作成と模擬授業⑥ 11. 教材研究(古典)と学習指導案作成と模擬授業⑦ 12. 教材研究(古典)と学習指導案作成と模擬授業⑧ 13. まとめ 授業全体を振り返り、授業をするための基礎的な教養について解説する。				

科目名	国語科指導法Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	「よくわかる国語の授業」をめざして	講義	
担当者	島田 哲朗		
[成績評価方法] 毎週の課題(20%)、模擬授業・発表内容(50%)、レポート(30%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ○各授業時に課す課題等は添削、採点し、原則として翌週に返却する。 ○レポートは原則として返却しない。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)] 書籍名:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN:9784491036403 書籍名:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN:9784491034706			

科目名	国語科指導法Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	「より深く理解する国語の授業」をめざして		講義	
担当者	島田 哲朗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	

[到達目標]

国語の授業が目指している「話す・聞く・読む・書く」能力を培う授業を展開するために教材の研究、授業計画の立案、および学習指導案作成・模擬授業を実践し、国語科教員としての必要性を認識する。

[授業概要]

中学校及び高等学校国語科の目標および内容について、学習指導要領をふまえ生徒がより深く理解し表現する方法について考える国語科教員の育成を目指す。高等学校「現代文」「古典」の内容に沿った授業指導案作成(学習目標・授業展開・評価方法等)の基本的な方法教材研究及び授業展開の方法に於いては情報通信機器の有効な利用法やICTの活用を理解し、授業設計に活用できることを模擬授業の場で実践し学んでいく。授業の進度に応じて参考文献の読書課題を課す。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- 各回、予習復習合わせて4時間程度。
- 近代以降の文学者、科学者、哲学者等の作品を読む。
- 「枕草子」「源氏物語」「土佐日記」「徒然草」「古今和歌集」「奥の細道」などの古典作品を読む。
- 「史記」「論語」「唐詩選」等の漢文作品を読む。

[授業計画]

1. 国語の成立と変遷：大正期から昭和期の言語文化と国語教育に関して
2. 現代の国語教育に関して：学習指導要領解説、情報通信機器の利用やICT活用の重要性について解説。
3. 学習指導案作成(現代文)と模擬授業①(受講者をグループ分けし、指導案作成や教材研究の方法、模擬授業の発表順などを協議します。)
4. 学習指導案作成(古典・古文)と模擬授業②
5. 学習指導案作成と(古典・漢文)模擬授業③
6. 模擬授業(現代文)と模擬授業①(教材ごとの模擬授業担当はあらかじめグループ分けし、教材研究、発表等、協力し合って実施します。ここから現代文の模擬授業実習です。教材は「山月記」・「こころ」を予定しています。それぞれの時間で、グループの代表2人から3人の「模擬授業」を行い、その後、受講者相互による感想、討議を行う予定です。6限～9限は教材の進行に従い模擬授業担当者が変わっていきます。古典の授業も同様です。)
7. 模擬授業(現代文)と検討②
8. 模擬授業(現代文)と検討③
9. 模擬授業(現代文)と検討④
10. 模擬授業(古典・古文)と検討①(ここから「古典」の模擬授業です。教材は「枕草子」・「史記」を予定しています。)
11. 模擬授業(古典・古文)と検討②
12. 模擬授業(古典・漢文)と検討③
13. 模擬授業(古典・漢文)と検討④及びまとめ

科目名	国語科指導法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	「より深く理解する国語の授業」をめざして	講義	
担当者	島田 哲朗		
[成績評価方法] 毎週のレポート(20%)、発表内容(50%)、レポート(30%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ○各授業時に課す課題等は添削、採点し、原則として翌週に返却する。 ○レポートは原則として返却しない。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 毎週の課題、模擬授業・発表内容、レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)] 書籍名:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN:9784491036403 書籍名:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN:9784491034706			

科目名	古典芸能講読 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 古典芸能作品としての浄瑠璃正本の読み方をマスターする。 生の舞台にふれて、古典芸能を体感する。 [授業概要] 浄瑠璃正本を講読し、現在文楽として上演される舞台を鑑賞する。 ・大阪日本橋にある国立文楽劇場で開催される「文楽鑑賞教室」(6月5日～19日。10日は休演)に参加する(国立文楽劇場へ行って、文楽を鑑賞する)。 この参加を単位認定の前提とする。 ・1,600円の観劇料金と、国立文楽劇場までの交通費は受講生各自が負担する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 配付資料を熟読し、内容をよく理解しておくこと。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。 [授業計画] 1.第一 発端、大序 2.第一 切 口1 3.第一 切 口2 4.第一 切 詰、第二 口 5.第二 奥、切 口 6.第二 切 詰 7.第三 口、奥 8.第三 切 口(観劇6/10) 9.第三 切 詰(観劇6/17) 10.第四 11.第五 12.DVD鑑賞1(7/8) 13.DVD鑑賞2(7/15)			

科目名	古典芸能講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] 観劇レポート(50%)、鑑賞レポート(50%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートについて授業中コメントする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート [教科書(ISBN)]			

S21420 [LJH2-013]

科目名	古典芸能講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 古典芸能作品としての浄瑠璃正本の読み方をマスターする。 生の舞台にふれて、古典芸能を体感する。 [授業概要] 浄瑠璃正本を講読し、現在文楽として上演される舞台を鑑賞する。 ・大阪日本橋にある国立文楽劇場で開催される「文楽鑑賞教室」(6月5日～19日。10日は休演)に参加する(国立文楽劇場へ行って、文楽を鑑賞する)。 この参加を単位認定の前提とする。 ・1,600円の観劇料金と、国立文楽劇場までの交通費は受講生各自が負担する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 配付資料を熟読し、内容をよく理解しておくこと。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。 [授業計画] 1.第一 発端、大序 2.第一 切 口1 3.第一 切 口2 4.第一 切 詰、第二 口 5.第二 奥、切 口 6.第二 切 詰 7.第三 口、奥 8.第三 切 口(観劇6/10) 9.第三 切 詰(観劇6/17) 10.第四 11.第五 12.DVD鑑賞1(7/8) 13.DVD鑑賞2(7/15)			

科目名	古典芸能講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] 観劇レポート(50%)、鑑賞レポート(50%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・レポートについて授業中コメントする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 観劇レポート、鑑賞レポート [教科書(ISBN)]			

S21420F [LJH2-013]

科目名	古典芸能講読Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標]				
・世阿弥の『花伝(風姿花伝)』を室町末期の写本(奈良宝山寺蔵)で読み、和文テキストに馴れると共にその内容を理解する。 ・能の作品に親しみ、作品を生み出した文化に思いを馳せる。				
[授業概要]				
1. 事前に世阿弥『花伝(風姿花伝)』を室町末期の写本(奈良宝山寺蔵、奈良女子大学提供の電子データで閲覧)で読み、辞典やアプリを用いて判読を試み、参考書を用いながら、内容についての理解を深める。 2. 謡曲の〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を事前に配布した活字テキストで読み、現代語訳を試みるとともに、疑問点や感想をまとめておく。 3. 能楽堂で、学修した謡曲作品を鑑賞する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
電子データによって原資料の判読を試みしておくこと。 世阿弥『風姿花伝』を現代語訳などで読んでおくこと。 謡曲〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を現代語訳などで読んでおくこと。 事前に配布、または提示された資料を熟読し、疑問点や質問内容をまとめておくこと。 配布された資料及び授業内容を踏まえて、問題点を考え、レポート作成に備える。 各回、予習復習併せて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 世阿弥の生涯の概要。世阿弥作の能について。謡曲を読む①〈砧〉前半 2. 世阿弥の伝書の概要。世阿弥以外の謡曲作者について。謡曲を読む②〈砧〉後半 3. 花伝を読む①年来稽古条々。謡曲を読む③〈砧〉の典拠 4. 花伝を読む②年来稽古条々。謡曲を読む④〈砧〉鑑賞の手引き 5. 花伝を読む③物まね条々。謡曲を読む⑤〈隅田川〉前半 6. 花伝を読む④物まね条々。謡曲を読む⑥〈隅田川〉後半 7. 花伝を読む⑤物まね条々。謡曲を読む⑦〈隅田川〉の典拠 8. 花伝を読む⑥問答条々。謡曲を読む⑧〈隅田川〉鑑賞の手引き 9. 花伝を読む⑦問答条々。謡曲を読む⑨〈羽衣〉前半 10. 花伝を読む⑧問答条々。謡曲を読む⑩〈羽衣〉後半 11. 花伝を読む⑨問答条々。謡曲を読む⑪〈羽衣〉の典拠 12. 花伝を読む⑩問答条々。謡曲を読む⑫〈羽衣〉鑑賞の手引き 13. 能楽鑑賞 12月21日(日)上田能楽堂で能〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を鑑賞する。				

科目名	古典芸能講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
[成績評価方法] 課題レポート2本(各40%)。鑑賞レポートまたは自由課題レポート(20%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 講義時に配布するアンケート用紙でのやりとりを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:風姿花伝 著者名:世阿弥 出版社名:奈良宝山寺蔵室町写本 ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表章, 加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN:9784007305153			

S21430 [LJH2-014]

科目名	古典芸能講読Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標]				
・世阿弥の『花伝(風姿花伝)』を室町末期の写本(奈良宝山寺蔵)で読み、和文テキストに馴れると共にその内容を理解する。				
・能の作品に親しみ、作品を生み出した文化に思いを馳せる。				
[授業概要]				
1. 事前に世阿弥『花伝(風姿花伝)』を室町末期の写本(奈良宝山寺蔵、奈良女子大学提供の電子データで閲覧)で読み、辞典やアプリを用いて判読を試み、参考書を用いながら、内容についての理解を深める。				
2. 謡曲の〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を事前に配布した活字テキストで読み、現代語訳を試みるとともに、疑問点や感想をまとめておく。				
3. 能楽堂で、学修した謡曲作品を鑑賞する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
電子データによって原資料の判読を試みしておくこと。				
世阿弥『風姿花伝』を現代語訳などで読んでおくこと。				
謡曲〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を現代語訳などで読んでおくこと。				
事前に配布、または提示された資料を熟読し、疑問点や質問内容をまとめておくこと。				
配布された資料及び授業内容を踏まえて、問題点を考え、レポート作成に備える。				
各回、予習復習併せて4時間程度。				
[授業計画]				
1. 世阿弥の生涯の概要。世阿弥作の能について。謡曲を読む①〈砧〉前半				
2. 世阿弥の伝書の概要。世阿弥以外の謡曲作者について。謡曲を読む②〈砧〉後半				
3. 花伝を読む①年来稽古条々。謡曲を読む③〈砧〉の典拠				
4. 花伝を読む②年来稽古条々。謡曲を読む④〈砧〉鑑賞の手引き				
5. 花伝を読む③物まね条々。謡曲を読む⑤〈隅田川〉前半				
6. 花伝を読む④物まね条々。謡曲を読む⑥〈隅田川〉後半				
7. 花伝を読む⑤物まね条々。謡曲を読む⑦〈隅田川〉の典拠				
8. 花伝を読む⑥問答条々。謡曲を読む⑧〈隅田川〉鑑賞の手引き				
9. 花伝を読む⑦問答条々。謡曲を読む⑨〈羽衣〉前半				
10. 花伝を読む⑧問答条々。謡曲を読む⑩〈羽衣〉後半				
11. 花伝を読む⑨問答条々。謡曲を読む⑪〈羽衣〉の典拠				
12. 花伝を読む⑩問答条々。謡曲を読む⑫〈羽衣〉鑑賞の手引き				
13. 能楽鑑賞 12月21日(日)上田能楽堂で〈砧〉〈隅田川〉〈羽衣〉を鑑賞する。				

科目名	古典芸能講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
[成績評価方法] 課題レポート2本(各40%)と鑑賞レポートまたは自由課題レポート(20%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 講義時に配布するアンケート用紙でのやりとりを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1ー1 ／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1ー2／日本語・日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1ー3 ／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2ー1 ／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2ー2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語・日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2ー3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3ー1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3ー2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:風姿花伝 著者名:世阿弥 出版社名:奈良宝山寺蔵室町写本 ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表章, 加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN:9784007305153			

S21430F [LJH2-014]

科目名	古典芸能特講 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 古典芸能についての基礎知識を身につけ、古典芸能への理解を深める。				
[授業概要] 段物集の序という形で示される、宇治加賀掾と竹本義太夫(筑後掾)の芸論と、彼らに作品を提供した近松門左衛門の芸論を講ずる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 配付資料を熟読し、理解を深め、知識を定着させること。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。				
[授業計画] 1.近世浄瑠璃史概観 2.宇治加賀掾の芸論1 3.宇治加賀掾の芸論2 4.宇治加賀掾の芸論3 5.宇治加賀掾の芸論4 6.宇治加賀掾の芸論5 7.竹本義太夫(筑後掾)の芸論1 8.竹本義太夫(筑後掾)の芸論2 9.竹本義太夫(筑後掾)の芸論3 10.竹本義太夫(筑後掾)の芸論4 11.竹本義太夫(筑後掾)の芸論5 12.近松門左衛門の芸論1 13.近松門左衛門の芸論2				

科目名	古典芸能特講 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] 授業中課題(50%)、まとめレポート(50%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・課題は評価後、授業中に解説をする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業中課題、まとめレポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	古典芸能特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] 1. 金春禅竹『五音三曲集』を自筆本で読み、参考書を用いて、内容の理解に努める。 2. 提示された『五音三曲集』の注釈に対して疑問点を見つけ、アンケート用紙に記入する。 3. アンケート結果を踏まえて、授業時間に討議する。 4. 上記の結果を踏まえ、『五音三曲集』の内容や世阿弥または禅竹の用語などについて、調査した結果をレポートにまとめる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・事前に指示していた資料を、活字テキストを手掛かりに翻字を試みる。 ・提示された注釈書を読み、疑問点をアンケート用紙に記入する。 ・授業内容を踏まえ、各自が出した疑問点について、解決方法等を考える。 各回、予習復習併せて4時間程度。 [授業計画] 1. 導入。五音説(世阿弥『五音曲条々』『五音』と禅竹『五音之次第』)について 2. 世阿弥の『九位』について 3. 定家仮託歌論書『三五記』について 4. 『五音三曲集』を読む① 5. 『五音三曲集』を読む② 6. 禅竹『歌舞髓脳記』について 7. 『五音三曲集』を読む③ 8. 『五音三曲集』を読む④ 9. 『五音三曲集』を読む⑤ 10. 禅竹の六輪一露説について 11. 『五音三曲集』を読む⑥ 12. 『五音三曲集』を読む⑦ 13. 『五音三曲集』を読む⑧			

科目名	古典芸能特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 アンケート用紙での質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答(40%)、レポート(60%)により評価する。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業時間内でのやりとりを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 質問や問題点の指摘、授業時の意見発表・質疑応答、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:五音三曲集 著者名:金春禅竹 出版社名:国書データベース 五音三曲集, 国文研貴重書, 99-81-2, 写, 長禄4, 1冊 ISBN: 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:金春古伝書集成 著者名:表章, 伊藤正義校注 出版社名:わんや書店 ISBN: 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表章, 加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN:9784007305153 書籍名:世阿弥伝書用語索引 著者名:中村格編 出版社名:笠間書院 ISBN:978-4-305-20086-0 書籍名:伊藤正義中世文華論集第三巻金春禅竹の研究 著者名:樹下文隆, 落合博志編 出版社名:和泉書院 ISBN:978-4-7576-0751-4 書籍名:金春禅竹自筆能楽伝書 著者名:樹下文隆編 出版社名:汲古書院 ISBN:9784762933660			

S21450 [LJH3-008]

科目名	古典文学講読Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 著名な説話をもとに、説話がさまざまな古典作品に取り込まれ、変貌していく過程を読み解き、古典文学の基層と変容の種々相を知る事で、今日の日本文化の基底となるものに興味を抱くようになる。				
[授業概要] 『今昔物語集』、『平家物語』『剣之巻』、『太平記』、能く羅生門)、室町物語「羅生門」を比較しながら読み解くことで、『今昔物語集』巻二十七「近江国安義橋鬼喰人語第十三」から始まる鬼退治物の系譜を、日本文化の一つとして捉え、今流行している鬼のアニメ物が誕生するルーツの一つに日本文化における鬼の扱われ方を考える。併せて、原文に近い形で本文を提供することで、日本語の表記体系の元となった和漢混淆文に慣れ親しむ契機としたい。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] (授業前)事前に配布した資料を読み、それぞれの作品において、筋書や内容の違いを考える。それぞれの作品の現代語訳を入手するなどして、あらすじをつかんでおく。 (授業後)あらすじ、登場人物などをまとめ、問題点、疑問点を見つける。 各回、予習復習併せて4時間程度。				
[授業計画] 1. 『今昔物語集』巻二十七「安義橋鬼喰人語第十三」を読む。 2. 『今昔物語集』巻二十七「安義橋鬼喰人語第十三」のテーマを考える。 3. 『今昔物語集』巻二十七「安義橋鬼喰人語第十三」に関する論文を読む。 4. 屋代本『平家物語』『剣之巻』(鬼切)を読む。 5. 屋代本『平家物語』『剣之巻』(鬼切)と源氏重代の刀の意味を考える。 6. 屋代本『平家物語』『剣之巻』(鬼切)を含む「剣巻」の意味を考える。 7. 百二十句本『平家物語』『剣之巻』(鬼切)を読む。 8. 百二十句本『平家物語』『剣之巻』(鬼切)と屋代本『平家物語』の違いを捉える。 9. 『太平記』巻三十二「鬼丸鬼切事」を読む。 10. 『太平記』巻三十二「鬼丸鬼切事」と『平家物語』『剣之巻』(鬼切)を比較する。 11. 室町物語「羅生門 上」を読む。 12. 室町物語「羅生門 下」を読む。 13. 謡曲「羅生門」を読む。				

科目名	古典文学講読 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
[成績評価方法] 作品の構造分析レポート(40%)と主題レポート(40%)、アンケート用紙のコメント(20%)により評価する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問のやりとりは、メール及びアンケート用紙で随時行う。レポートはmanabaにて教員及び履修者が個々にコメントを返すなどしてフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: レポート・コメント 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート・コメント [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・コメント 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート・コメント 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート・コメント 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート・コメント [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S21020 [LJH2-005]

科目名	古典文学講読Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 1. 平安時代の物語の女君の語られ方の特徴を知り、説明できる。 2. 人物造型と物語展開の関係や、女君同士の影響関係を読み取り、説明できる。 3. 平安時代の物語の女君を取り上げ、その特徴や物語展開における役割、影響関係を整理し、資料を用いてわかりやすく説明できる。 [授業概要] この授業では、平安時代の物語の女君に焦点を当てて複数の作品や場面を読んでいく。平安時代の物語に登場する女君がどのような言葉で特徴づけられているか、人物造型と物語展開との関係、女君同士の影響関係などを、本文を読みながら把握する。最終的には、受講生自身がそれらを他者にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 配布資料から女君の特徴が読み取れる箇所を取り上げ、そこから女君のどのような特徴が読み取れるかを、授業内に答えられるように予習を行う。 配布資料を読み、特徴的な言葉については辞書などを用いて調べておく。配布資料の前後の場面などもあわせて読んでおくとうい。 [授業計画] 1. 本授業で扱う作品の流れ 2. かぐや姫 3. 落窪の君・あこき 4. 桐壺の更衣 5. 藤壺・葵の上 6. 紫の上 7. 夕顔・末摘花 8. 六条御息所・明石の君 9. 玉鬘・女三の宮 10. 浮舟 11. 源氏の宮・女二の宮 12. 寝覚の上 13. まとめ				

科目名	古典文学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 課題(各回、授業内と授業後に課す)(40%)、期末レポート(60%)による。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内やmanabaを用いてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、期末レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:適宜資料を配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)]			

S21030 [LJH2-006]

科目名	古典文学特講Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	中世の芸術論を読む		講義	
担当者	大山 範子			
〔アクティブラーニング授業〕				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
〔 到達目標 〕 『風姿花伝』の概要とその成立背景を理解する。さらに、その内容について芸術論・教育論・演劇論など自由な視点から考察し、世阿弥が重視したことがらについて、自分なりのことばで説明することができる。				
〔 授業概要 〕 能を大成した世阿弥は、多くの作品を作り自ら演じたが、二十篇以上の能楽論も遺している。この授業では、まず世阿弥の生涯・作品について概説する。その上で、演者による最古の演劇論であり、現代も読みつがれている『風姿花伝』をとりあげ、彼の理論や思想背景、実作との係わりなどについて幅広く考察する。				
〔 準備学修(予習・復習)の内容・時間 〕 各回、予習復習合わせて4時間程度。 事前に講義内容を予告し資料を配付するので、必ず目を通して頂くこと。				
〔 授業計画 〕 01. 世阿弥の生涯と作品 02. 世阿弥の伝書について 03. 『風姿花伝』第一年来稽古条々(1) 04. 『風姿花伝』第一年来稽古条々(2) 05. 『風姿花伝』第二物学条々 06. 『風姿花伝』第三問答条々(1) 06. 『風姿花伝』第三問答条々(2) 08. 『風姿花伝』第四神儀 09. 『風姿花伝』奥義云 10. 『風姿花伝』第六花修(1) 11. 『風姿花伝』第六花修(2) 12. 『風姿花伝』第七別紙口伝(1) 13. 『風姿花伝』第七別紙口伝(2)				

科目名	古典文学特講Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	中世の芸術論を読む	講義	
担当者	大山 範子		
[成績評価方法] 期末レポート60%、講義時の小課題(不定期、数回を予定)40% [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小課題については次回講義時にコメントをする。期末レポートは提出・講評ともKISSを利用。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)] 書籍名:新編 日本古典文学全集88・連歌論集 能楽論集 俳論集 著者名:奥田 勲 出版社名:小学館 ISBN:9784096580882 書籍名:新潮日本古典集成(新装版)世阿弥芸術論集 著者名:田中 裕 出版社名:新潮社 ISBN:9784106208614 書籍名:風姿花伝・三道 現代語訳付き 著者名:世阿弥 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784044055011 書籍名:世阿弥 禅竹 著者名:表 章、加藤周一校注 出版社名:岩波書店 ISBN:9784000090711			

科目名	古典文学特講Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	中世の古今集仮名序注釈を読む		講義	
担当者	大山 範子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本文学における最古の批評である『古今和歌集』仮名序が中世にどのように読まれていたを把握し、さらにそこから展開した文芸世界について知る。 [授業概要] まず『古今和歌集』仮名序本文を概観し、全体を把握する。そのうえで、後世にも大きな影響を与えた、一条兼良の『古今童蒙抄』と飛鳥井栄雅『古今栄雅抄』を読み進める。併せて、中世から近世初期にかけて広く流布したとされる三流抄系統の注釈も参照しながら、中世期における古今仮名序の享受とその広がりについて講義する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 事前に講義内容を予告し資料を配付するので、必ず目を通して頂くこと。 [授業計画] 01. 『古今和歌集』の仮名序について 02. 仮名序の本文講読 03. 古今集仮名序の注釈史 04. 仮名序注(1)和歌とは 05. 仮名序注(2)和歌の成り立ち 06. 仮名序注(3)和歌の歴史 07. 仮名序注(4)和歌の分類 08. 仮名序注(5)和歌のありよう 09. 仮名序注(6)二人の歌聖 10. 仮名序注(7)六歌仙 11. 仮名序注(8)古今集の成り立ち 12. 仮名序注(9)結び 13. まとめ				

科目名	古典文学特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	中世の古今集仮名序注釈を読む	講義	
担当者	大山 範子		

〔 成績評価方法 〕

期末レポート(60%)および講義時の小課題(不定期、数回を予定。40%)によって評価する。

〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕

小課題については次回講義時にコメントをする。期末レポートは提出・講評ともKISSを利用。

〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 メールアドレス 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕

学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 講義時の小課題および期末レポート

〔 教科書(ISBN) 〕

〔 参考書(ISBN) 〕

科目名	コミュニケーション特講 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] コミュニケーションについて理論的な枠組みを理解し、教室でのスピーチ、ディスカッションなどの実践学習で伝達表現能力を養い、社会に必要なコミュニケーション能力を身につける。				
[授業概要] テレビ局などの放送業界やCM企画、マーケティング、デジタル、IT業界などの実務経験豊富な講師の解説で、人が日常を始め社会の中で経験する様々なテーマを取り上げ、重要な点を整理・考察する。授業の中では、円滑なコミュニケーションを図る手段、多様化するコミュニケーションの現状を解説したうえで、問題点などを考察する。日常から会話に興味を持ち、どうすれば自己の考え方が人に伝わるかのを考察し、家族や友人と話しをする際も様々な工夫を試す。テレビ番組を観たり新聞を読んだりネットニュースをチェックしたり音楽を聴いたり情報に触れた際に独自に感想、意見を考えてみる。 そしてスピーチ、グループディスカッションなどのコミュニケーション実習を始め 実践型の体験演習することで、就活等にも役立つ、コミュニケーション表現能力を養う。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて4時間程度。 日常会話に興味を持ち、どうすれば自己の考え方が人に伝わるかのを考察し、家族や友人と会話する際にコミュニケーションを意識して会話するなどの実践を試みる。社会のニュースや、自分の周辺の出来事に興味をもち、分析や整理をしておく。				
[授業計画] 1. 導入:コミュニケーションについて(笹原) 2. コミュニケーション表現の基礎について (北川) 3. 円滑なコミュニケーション①自己紹介とは(北川) 4. 円滑なコミュニケーション②他者紹介とは(笹原) 5. TV CM、生成AIなどにみる変革するメディアとコミュニケーションについて(北川) 6. 共感から始まるデザイン思考によるコミュニケーションの進化について(笹原) 7. コミュニケーション表現力を高める(笹原) 8. コミュニケーション・マネジメントについて(北川) 9. 日本語の特性と非言語(ノンバーバル)コミュニケーションの重要性(北川) 10. ニュースや社会的出来事について考察しコミュニケーション力を高める(北川) 11. 実社会でコミュニケーション表現を活かすテクニック(笹原) 12. 実演・面談イノベーションで変革するメディアとこれからののコミュニケーションについて(笹原) 13. イノベーションで変革するメディアとこれからののコミュニケーションについて(北川)				

科目名	コミュニケーション特講 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
[成績評価方法] 授業中の体験演習 発表(50%)、レポート(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 講評及びレポートに記載 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中の発表(50%) レポート(50%) 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業中の発表と(50%) レポート(50%) [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	コミュニケーション特講Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・日本語の音声コミュニケーション上の特徴を説明できる ・実践的なコミュニケーション能力を身につけ、人前で発揮できる。 ・自分自身のコミュニケーション上の特性を自覚し、その改善を行う。 [授業概要] 音声によるコミュニケーションは、言語の最も根幹をなすものであり、現代日本の教育においては話す・聞く・読む・伝え合う力が重要視されている。この授業では、これらの能力を支えている基礎的な音声理論・コミュニケーション理論に理解を深めるとともに、様々な形態によるコミュニケーションを実践することで発話力・コミュニケーションスキル・伝え合う力の向上を目指す。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 事前に提示する発表の準備と振り返りを各自で行う。 教員から特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うように。 [授業計画] 1. ガイダンス 音声とコミュニケーションの関係 2. 自己紹介・他者紹介 ◎ 3. 音声の仕組み 4. 1分スピーチ ◎ 5. コミュニケーション理論 6. 音読(1) 1回目 ◎ 7. 音読(2) 2回目 ◎ 8. ノンバーバルコミュニケーション・面接準備 9. 集団形式による模擬面接(1) 前半グループ ◎ 10. 集団形式による模擬面接(2) 後半グループ ◎ 11. アルバイトのことば 12. ニュースを読む(1) 練習 ◎ 13. ニュースを読む(2) 本番 ◎				

科目名	コミュニケーション特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡 崎 裕 剛		
[成績評価方法] 発表(◎がついている5種類:60%)、提出物(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。 ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・提出物 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・提出物 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・提出物 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力			

科目名	社会言語学		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 身近なことばのさまざまな違いを社会言語学的な観点から考察できるようになる。				
[授業概要] 私たちはことばを、さまざまな要因で使い分けている。日本語か中国語かといった個別言語の選択はもちろんのこと、一言語の中でも性別、地域、年齢などといった個人の属性によってことばが違ってもあれば、相手が誰なのかによって使うことばが変わることもある。また、友達との会話にかぎっても、遊んでいるときやゼミ発表など、それがどのような場面なのかによって使い分けられることも多い。 この講義では、言語を人の属性や使われる状況、社会などと関連させて捉える社会言語学について、ユニークな研究に触れながら学んでいく。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指定した教科書の授業で取り上げる章を事前に熟読しておくこと。 授業中に次週提出の課題を指示した場合、提出できるように取り組むこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。				
[授業計画] 1. 導入:社会言語学とは 2. 言語と地域1: 方言 3. 言語と地域2: 標準語・共通語・公用語・国語 4. 言語と地域3: 言語と意識 5. 言語と社会階層・民族 6. 言語とジェンダー1: ことばの男女差 7. 言語とジェンダー2: 性差別的言語 8. 言語と年齢 9. 言語の選択1: ダイグロシア 10. 言語の選択2: コード・スイッチング 11. スタイルとレジスター 12. ポライトネス 13. まとめ				

科目名	社会言語学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	橋本 礼子		
[成績評価方法] レポート(70%)、授業中課題(30%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中課題や質問については授業中にフィードバックする。 メールやmanabaの掲示板などでの質問も受け付ける。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 課題・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:改訂版 社会言語学 著者名:岩田 祐子 出版社名:ひつじ書房 ISBN:9784823411434 [参考書(ISBN)]			

科目名	書道	後期	2 単位
サブタイトル	書写書道教育の基礎から応用	演習	
担当者	北山 聡佳		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
[到達目標] 小中学校国語科における書写の基礎的な知識技能の習得はもちろん、そこに至るまでの文字周辺の歴史を学び、書道実技の経験を通して、書写書道のさまざまな側面に触れることを目的とする。そのうえで、幅広い書写指導ができる知識技能の習得を目指し、教員としての指導力を身につける。 [授業概要] 小・中学校学習指導要領や現行教科書をもとにした内容の知識技能の習得を前提に、「書写」の根源である「書道」の知識技能も学ぶ内容とする。さらに、幅広い児童生徒に対応するために、書写だけではなく必須となるその背景(歴史や文化的事項)も知ること、高等学校芸術科書道にもつなげる指導力を磨く。 書道を学ぶことで、日中の伝統文化の継承や発展に寄与し、その意義や楽しさを体感することで、それらを次の世代へつなげるための考えを深め、持続可能な社会への貢献を目指す。 ※本授業は金曜日3限の対面形式を基本とするが、そのうち数回を遠隔授業(オンデマンド形式)および補講日への振り替えで実施する。詳細は初回ガイダンス時に通知するが、予め了承すること。 ※予習復習の効果を高めるため講義を中心とする場合は遠隔形式で実施する場合がある。 ※用具を準備する時間を短縮し、集中して実技に取り組むため補講日に2コマ通時で開講する場合がある。 ※1月の補講日に開講する場合がある。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 教科書や学習指導要領などを閲覧しておくこと。また、継続的な実技練習をおこなうこと。 [授業計画] 1. 書写用具について 2. 実技の基礎①「毛筆による基本点画」 3. 書写書道の歴史 4. 実技の基礎②「毛筆による文字の書き方」 5. 実技の基礎③「毛筆によるさまざまな見本の書き方」 6. 実技の応用①「書道・漢字の書」 7. 小筆による書の学習 8. 実技の応用②「書道・仮名の書」 9. 実技の応用③「作品制作1」 10. 作品鑑賞と作品指導 11. 実技の応用④「作品制作2」 12. 実技の応用⑤「作品制作3」 13. これからの書写と書道			

科目名	書道	後期	2 単位
サブタイトル	書写書道教育の基礎から応用	演習	
担当者	北山 聡佳		
[成績評価方法] 成績評価方法提出物〔レポート・作品など〕(70%)、受講態度(30%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 随時、教員から添削やコメントをおこない、フィードバックするとともに、互いの作品について考え、助言し合う方法も含める。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [教科書(ISBN)] 書籍名:書道 I 著者名:中村伸夫ほか12名 出版社名:教育出版 ISBN:978-4-316-20461-1 [参考書(ISBN)]			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	井上 勝志		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

〔到達目標〕

これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。

〔授業概要〕

担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受けとめて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。

〔準備学修(予習・復習)の内容・時間〕

各回、予習復習合わせて2時間程度。

事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。

必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。

計画を立て、執筆の準備を進めておく。

教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。

〔授業計画〕

1.研究テーマの発表、質疑応答

2.年間計画の策定

3.研究テーマの設定と概要1

4.研究テーマの設定と概要2

5.研究テーマの設定と概要3

6.研究テーマの設定と概要4

7.研究テーマの設定と概要5

8.研究テーマの設定と概要6

9.研究テーマの設定と概要7

10.研究テーマの設定と概要8

11.中間発表1

12.中間発表2

13.中間発表3

14.発表と質疑応答1

15.発表と質疑応答2

16.発表と質疑応答3

17.個別指導1

18.個別指導2

19.個別指導3

20.個別指導4

21.個別指導5

22.個別指導6

23.個別指導7

24.成稿1

25.成稿2

26.最終点検

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	井上 勝志		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行う。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S29000 [LJH4-001]

科目名	卒業論文		前期～後期	8 単位
サブタイトル			演習	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他	個別指導	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。 [授業概要] 担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受けとめて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。 計画を立て、執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 前期ガイダンス 2. プレインストーミング 3. テーマ確定 4. プロット構築 5. 基礎調査1 6. 基礎調査2 7. 基礎調査3 8. 進捗報告1 9. 進捗報告2 10. 進捗報告3 11. 前期中間発表1 12. 前期中間発表2 13. 前期振り返り 14. 後期ガイダンス 15. 後期中間発表1 16. 後期中間発表2 17. 指導と添削1 18. 指導と添削2 19. 指導と添削3 20. 指導と添削4 21. 指導と添削5 22. 指導と添削6 23. 指導と添削7 24. 論文の完成と提出 25. 梗概作成 26. 研究成果の報告				

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	岡墻 裕剛		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行う。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文、試問 〔 教科書(ISBN) 〕 〔 参考書(ISBN) 〕			

S29010 [LJH4-001]

科目名	卒業論文		前期～後期	8 単位
サブタイトル			演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] これまでの学修成果をもとに、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。 [授業概要] 担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答の中での批評・批判を受け止めて修正しながら、より良い卒業論文を作り上げる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。 計画を立て、執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 卒業論文について、論文提出までの計画 2. 論文のテーマに関する発表、質疑応答 3. 論文の内容等について、個別に話し合う(1) 4. 論文の内容等についての発表、質疑応答(1) 5. 論文の内容等について、個別に話し合う(2) 6. 論文の内容等について、個別に話し合う(3) 7. 論文の内容等について、個別に話し合う(4) 8. 論文の内容等について、個別に話し合う(5) 9. 論文の内容等についての発表、質疑応答(2) 10. 論文の内容等について、個別に話し合う(6) 11. 論文の内容等について、個別に話し合う(7) 12. 論文の内容等について、個別に話し合う(8) 13. 論文の構想についての発表、質疑応答 14. 論文の概要についての発表、質疑応答 15. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(1) 16. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(2) 17. 中間発表 18. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(3) 19. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(4) 20. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(5) 21. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(6) 22. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(7) 23. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(8) 24. 論文の内容・構成・表現等について、個別に指導(9) 25. 論文の成果について報告、梗概についての指導 26. 論文の梗概に基づく発表、質疑応答				

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 卒業論文・試問による。(100%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 適宜個別指導を行うほか、中間発表を行う。完成論文に対しては、試問によってフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、卒業論文・試問 [教科書 (ISBN)] 書籍名なし 著者名なし 出版社名なし ISBNなし [参考書 (ISBN)]			

S29020 [LJH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。 [授業概要] 担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受けとめて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。 計画を立て、執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 前期ガイダンス1 心構え 2. 前期ガイダンス2 参考図書等の探し方 3. 前期ガイダンス3 執筆の注意点 4. 前期ガイダンス4 テーマ検討 5. 個別指導1 6. 個別指導2 7. 個別指導3 8. 個別指導4 9. 中間発表1 10. 中間発表2 11. 中間発表3 12. 中間発表4 13. 夏季休業中の取り組みについて 14. 後期ガイダンス1 目次・一次稿提出 15. 後期ガイダンス2 執筆時の諸注意・推敲 16. 個別指導5 17. 個別指導6 18. 中間発表5 19. 中間発表6 20. 中間発表7 21. 中間発表8 22. 個別指導7 23. 個別指導8 24. 個別指導9 25. 要約(梗概集)の諸注意 26. 口頭試問の諸注意			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行う。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文・試問			
〔 教科書 (ISBN) 〕			
〔 参考書 (ISBN) 〕			

S29030 [LJH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永渕 朋枝		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。			
[授業概要] 担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受けとめて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。 計画を立て、執筆の準備を進めておく。			
[授業計画] 前期 1. 各自が卒業論文で取り上げる作品、テーマを発表。「卒論作成マニュアル」 2. 「卒業論文進行予定表」、履修チェックシート提出。図書館にて文献検索指導1。 3. (4月末)図書館にて文献検索指導2。「卒業論文構想表」提出。「卒業論文プレ中間発表」で発表することを確認。 4. (5月上旬)以後、各自調査し(取り上げる作品、全集、参考文献を読み込むなど)、毎週調査の報告をして(できるだけ毎週400字以上)、指導を受け、論の方向を決めていく。報告1。 5. (5月中旬)「卒業論文プレ中間発表1」(4回生ゼミ内) 6. 「卒業論文プレ中間発表2」(4回生ゼミ内) 7. 「卒業論文プレ中間発表3」(4回生ゼミ内) 8. (6月初旬)「卒業論文プレ中間発表4」(4回生ゼミ内) 9. 報告2 10. 報告3 11. 報告4 12. 「卒業論文の主題」(一番言いたいこと)10行程度を提出。夏休みの課題について、指導を受ける。 13. 「卒業論文の主題」10行程度を書き直して提出。 (8月末まで)「論文の仮アウトライン」提出(論文の骨子になるであろうことを800字詰め10枚以上)。 後期 1. 新「構想表」提出。中間発表をする箇所を発表。中間発表用レジュメ作成。 2. (10月初旬)「卒業論文中間発表2」(3回生のゼミ生参加)。 3. (10月上旬)「卒業論文中間発表1」(3回生のゼミ生参加)。 4. 指摘されたことを中心に考察を深め、足りない点を調査し、卒業論文を書いていく。毎週、報告して指導を受けることは、前期と同じ。報告1。 5. 報告2 6. (11月初旬)卒論の全体を書いたものを持ってくる。 7. 推敲、書き直し1 8. 推敲、書き直し2 9. 推敲、書き直し3 10. (11月末)卒論全体を持って来て指導を受ける。ゼミ生同士で、お互いにチェックする。 11. (12月初旬)卒業論文ゼミへの提出。 12. (12月中旬)卒業論文を書き直し卒業論文を提出。 13. 卒業論文の梗概提出。主査と副査による試問。			

S29050 [LJH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永渕 朋枝		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行ってコメントをする。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S29050 [LJH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	橋本 礼子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

〔到達目標〕

これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。

〔授業概要〕

担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受けとめて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。

〔準備学修(予習・復習)の内容・時間〕

各回、予習復習合わせて2時間程度。
事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。
必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。
計画を立て、執筆の準備を進めておく。

〔授業計画〕

1. 前期ガイダンス1 心構え
2. 前期ガイダンス2 参考図書等の探し方
3. 前期ガイダンス3 執筆の注意点
4. 前期ガイダンス4 テーマ検討
5. 個別指導1
6. 個別指導2
7. 個別指導3
8. 個別指導4
9. 中間発表1
10. 中間発表2
11. 中間発表3
12. 中間発表4
13. 中間発表5
14. 後期ガイダンス1 目次・一次稿提出
15. 後期ガイダンス2 執筆時の諸注意・推敲
16. 中間発表6
17. 中間発表7
18. 中間発表8
19. 中間発表9
20. 中間発表10
21. 中間発表11
22. 個別指導5
23. 個別指導6
24. 個別指導7
25. 個別指導8
26. 要約と口頭試問についての諸注意

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	橋本 礼子		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行う。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 卒業論文・試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 卒業論文・試問 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S29070 [LJH4-001]

科目名	卒業論文		前期～後期	8 単位
サブタイトル			演習	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] これまでの学修の成果を基に、自分で見つけたテーマについて深く調査し、論文にまとめる。				
[授業概要] 担当教員の指導のもと、研究テーマを設定し、先行研究や資料を収集して読解・検討しつつ、自ら課題に取り組むことによって卒業論文を作成する。 ゼミでの発表および質疑応答のなかで批評・批判を受け止めて修正しながら、よりよい卒業論文を作りあげる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 必要な資料や論文を収集して読み込み、課題を熟考しておく。 計画を立て、執筆の準備を進めておく。				
[授業計画] 1. 卒論執筆の年間計画 2. 資料収集① 3. 資料収集② 4. 資料収集③ 5. 資料収集④ 6. 下書き執筆① 7. 下書き執筆② 8. 下書き執筆③ 9. 卒論中間発表会① 10. 卒論中間発表会② 11. 卒論中間発表会③ 12. 卒論中間発表会④ 13. 卒論中間発表会⑤ 14. 卒論下書き提出 15. 添削指導① 16. 添削指導② 17. 添削指導③ 18. 添削指導④ 19. 添削指導⑤ 20. 添削指導⑥ 21. 添削指導⑦ 22. 添削指導⑧ 23. 添削指導⑨ 24. 卒論提出 25. 口頭試問準備① 26. 口頭試問準備②				

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	安原 順子		
〔 成績評価方法 〕 卒業論文・試問による(100%)。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 適宜個別指導を行うほか、中間発表会を行う。完成論文に対しては試問によってフィードバックする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・卒業論文・試問 〔 教科書(ISBN) 〕 書籍名:卒業論文指導中に、個別に指示する。著者名: 出版社名: ISBN: 〔 参考書(ISBN) 〕 書籍名:卒業論文指導中に、個別に指示する。著者名: 出版社名: ISBN:			

S29090 [LJH4-001]

科目名	中国文学講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

〔到達目標〕

漢和辞典の調べ方、「訓読」の基礎的事項を一通り把握し、基礎的内容の古典漢文を理解できるようになる。

〔授業概要〕

「漢文」とは、古典中国語を指す言葉である。本講義では、まず古典中国語の読むために必須な漢和辞典の引き方を学習し、ついで古典中国語を日本語の文法に合うように語順を入れかえ、助詞・助動詞を加える「訓読」という方法を学習する。これと平行して、訓読の文体に慣れるべく、漢文訓読体で書かれた文章も幾篇か閲読する。こうした作業を通して古典中国語を解釈・翻訳する技術を身につけるようにする。その過程では、中国古典の持つ豊饒な文化的意義を学習し、さらにそれを「訓読」によって受けいれてきた日本文化の特質について理解を深めることを目指す。授業では、予習・復習が必須であるが、提出課題を数回課す予定である。

〔準備学修(予習・復習)の内容・時間〕

各回、予習・復習合わせて4時間程度。
授業で扱う教科書の該当箇所を事前に目を通しておき、重要事項を予習する。授業後、既習事項に関する課題プリントで配付するので、それをこなして復習に当てる。

〔授業計画〕

第1回：ガイダンス——漢字と漢文／直読と訓読／日本人と漢文についての講義。
※配布されたプリント、及び教科書に目を通し、学習内容を復習しておくこと。

第2回：漢和辞典の引き方、及び「訓読のしかた」・「書き下し文」・「熟語の構造・漢文の構造」についての解説
※教科書の10～19頁を予習しておく。授業後、漢和辞典を引く課題と復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第3回：「置き字」・「再読文字」・「返読文字」についての解説
※教科書の20～25頁を予習しておく。復習プリントをこなして基本知識を整理・確認し、次週提出する。

第4回：「否定の形」についての解説
※教科書の30～43頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第5回：「使役の形」・「受け身の形」についての解説
※教科書の46～50頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第6回：「疑問の形」についての解説
※教科書の52～61頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第7回：「反語の形」についての解説
※教科書の62～69頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第8回：「感嘆の形」・「仮定の形」・「比較の形」・「比況の形」についての解説
※教科書の70～82頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第9回：「選択の形」・「限定の形」・「累加の形」・「抑揚の形」についての解説
※教科書の83～93頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第10回：「願望の形」・「倒置の形」・「最重要単語」についての解説
※教科書の96～102頁を参照しながら、ワークの37～41頁を予習しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を整理・確認し、次週提出する。

第11回：「代名詞」・「接続詞」・「注意が必要な副詞」・「助動詞」・「前置詞」・「複合語」についての解説
※テキスト1の102～103・165～167頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第12回：「意味に注意する漢字」・「読みに注意する漢字」・「兼語文」・「さまざまな修飾語句」・「名詞句を作る助詞」についての解説
※テキスト1の168～171・185～191頁を予習して、不明点・疑問点を整理しておく。授業後、復習プリントをこなして基本知識を確認し、提出する。

第13回：まとめ
※これまでこなしてきた課題を復習し、漢文訓読についての基本的知識を固めておくこと。

科目名	中国文学講読 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
〔 成績評価方法 〕 提出物の内容及び授業内の課題による評価 (30%)と期末試験による評価 (70%)で判定する。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業後、KISSシステムを通して行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:体系漢文 著者名: 出版社名:数研出版 ISBN:9784410343049 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:【第4版】全訳漢辞海 著者名:戸川芳郎／監修 佐藤進／編 濱口富士雄／編 出版社名:三省堂 ISBN:9784385140483 書籍名:角川 新字源 [改訂新版] 著者名:小川 環樹 他編 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784046219664			

S22000 [LJH2-025]

科目名	中国文学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 「漢文訓読」の基礎を踏まえ、訓点のついていない白文でも簡単な構文であれば、辞書を使えばある程度把握できるようにする。さらに一歩進んで漢文の古典が持つ文学的な面白さを味わえるようにする。 [授業概要] 中国文学講読Ⅰで身につけた漢文訓読法を活かしながら、具体的な中国の古典の名篇を読んでいく。それによって漢文訓読の力を高めるとともに、中国古典に対する一層の理解を深めることを目的とする。授業では前期同様、随時課題プリントを配付し、漢文訓読の基礎を確実にしていく予定。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて4時間程度。 配布された予習兼宿題を事前にしっかりしておくこと。予習不足が明らかな場合、平常点に大きく影響するので注意。また授業には必ず前期で使った教科書・関連プリント、そして辞書を必ず携帯すること。 [授業計画] 第1回. ガイダンス——中国古典漢文のジャンルの多様性—— ※講義を通して、中国古典漢文の多様性及びこれから学習する各ジャンルの文体的特色について理解を深めること。 第2回. 諸子百家の文章を読む(1) ※前回の授業で配られた諸子百家の原文をノートに書き写し、意味内容が不明な点を辞書で調べて訓点を施し、それに基づいた書き下し文・現代語訳を作成しておくこと。授業でその適否を確認し、さらに復習によって、漢文訓読の技法に習熟すること。 第3回. 諸子百家の文章を読む(2) 第4回. 諸子百家の文章を読む(3) 第5回. 歴史書を読む(1)——『史記』選読—— ※配付された『史記』の原文をノートに書き写し、意味内容が不明な点を辞書で調べて訓点を施し、それに基づいた書き下し文・現代語訳を作成しておくこと。授業でその適否を確認し、さらに復習によって、漢文訓読の技法に習熟すること。 第5回. 歴史書を読む(2)——『史記』選読—— 第6回. 歴史書を読む(3)——『史記』選読—— 第7回. 歴史書を読む(4)——『史記』選読—— 第8回. 唐代伝奇小説選読(1) ※書面語で書かれた唐代の文言小説を閲読していく。配付された原文をノートに書き写し、意味内容が不明な点を辞書で調べて訓点を施し、それに基づいた書き下し文・現代語訳を作成しておくこと。授業でその適否を確認し、さらに復習によって、漢文訓読の技法に習熟すること。加えて所謂中国古典小説の特色を把握すること。 第9回. 唐代伝奇小説選読(2) 第10回. 唐代伝奇小説選読(3) 第11回. 古典散文作品を読む(1)——唐宋八家文選読—— ※配付された唐宋八家文の資料を原文をノートに書き写し、意味内容が不明な点を辞書で調べて訓点を施し、それに基づいた書き下し文・現代語訳を作成しておくこと。授業でその適否を確認し、さらに復習によって、漢文訓読の技法に習熟すること。加えて所謂「古文」の文体的特色の概略を把握すること。 第12回. 古典散文作品を読む(2)——唐宋八家文選読—— 第13回. まとめ			

科目名	中国文学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
〔 成績評価方法 〕 提出物の内容による評価(30%)と期末試験による評価(70%)で判定する。 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業後、KISSシステムを通して行う。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:体系漢文 著者名: 出版社名:数研出版 ISBN:9784410343049 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:【第4版】全訳漢辞海 著者名:戸川芳郎／監修 佐藤進／編 濱口富士雄／編 出版社名:三省堂 ISBN:9784385140483 書籍名:角川 新字源 [改訂新版] 著者名:小川 環樹 他編 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784046219664			

科目名	中国文学史 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	上原 尉暢			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 中学・高校の漢文教育において既習しておくべき最低限の中国文学に関する知識を身につけてもらい、同時にこれまでの自分たちが習っていた中国古典文学の世界がかなり狭い範囲に限定されていたことを確認してもらう。さらに文学作品の具体的な解釈を通して、観賞の方法の多様性や多角的な見方が存在することを発見してもらう。 [授業概要] 日本語の文字について考える時、漢字が不可欠な存在であることからあきらかなように、日本文化に中国文化が与えてきた影響は多大なものがある。したがって中国文化の精髓である古典に接することは、単に中国の文化を理解することのみならず、私たち日本人自身の足もとを理解することにも役立つであろう。本セメスターは中国史そして、中国文学史において重要な位置を占める『史記』を対象とし、古代中国における文学と歴史との特異な関係性について学ぶ。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて4時間程度。 授業内容に関連するプリントを配布するので、辞書や中国文学講読で用いた教科書『体系漢文』を用いて、疑問点・不明点を調べておくこと。授業ではそのプリント及び『体系漢文』を必ず持参するように。 [授業計画] 1. ガイダンス——『史記』の概要 2. 五帝本紀・夏本紀・殷本紀・周本紀をめぐって 3. 秦本紀・秦始皇本紀・呂不韋列傳をめぐって 4. 項羽本紀・高祖本紀をめぐって(1) 5. 項羽本紀・高祖本紀をめぐって(2) 6. 呂太后本紀・外戚世家をめぐって 7. 孔子世家・仲尼弟子列傳をめぐって 8. 吳太伯世家・楚世家・伍子胥列傳をめぐって(1) 9. 吳太伯世家・楚世家・伍子胥列傳をめぐって(2) 10. 刺客列傳をめぐって(1) 11. 刺客列傳をめぐって(2) 12. 太史公自序をめぐって 13. まとめ				

科目名	中国文学史 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
[成績評価方法] 授業内の提出物による評価(30%)+学期末の論述試験による評価(70%)で判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業後、KISSシステムを通して行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容 : 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容 : 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容 : 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	中国文学史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 中学・高校の漢文教育において既習しておくべき最低限の中国文学に関する知識を身につけてもらい、同時にこれまでの自分たちが習っていた中国古典文学の世界がかなり狭い範囲に限定されていたことを確認してもらう。さらに文学作品の具体的な解釈を通して、観賞の方法の多様性や多角的な見方が存在することを発見してもらう。 [授業概要] 中国古典詩を中心に、中国文学史を概観する。中国古典詩の全般的特徴と観賞の仕方を学び、同時に文学史的な流れも確認する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習・復習合わせて4時間程度。 前期同様、授業内容に関連するプリントを配布するので、辞書や中国文学講読で用いた教科書『体系漢文』を用いて、疑問点・不明点を調べておくこと。授業ではそのプリント及び『体系漢文』を必ず持参するように。授業で扱う関連箇所を事前にテキストを読んで把握しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス——中国詩の特色 2. 中国詩の視点と視線 3. 中国詩の形式と技巧 4. 季節を歌う詩——春(1) 5. 季節を歌う詩——春(2) 6. 季節を歌う詩——夏 7. 季節を歌う詩——秋(1) 8. 季節を歌う詩——秋(2) 9. 季節を歌う詩——冬(1) 10. 季節を歌う詩——冬(2) 11. 中国詩のテーマ——命をめぐって 12. 中国詩のテーマ友情をめぐって 13. まとめ			

科目名	中国文学史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上原 尉暢		
[成績評価方法] 授業内の提出物による評価(30%)+学期末の論述試験による評価(70%)で判定する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業後、KISSシステムを通して行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	日本語学概論 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・日本語と日本人の関係を客観的に説明できる ・日本語の表記・語彙上の特徴を把握し、正確な情報を選択できる。 ・日本語の位相(変種)について説明できる [授業概要] 日本語学は日本語の言語現象ならびに関連事象を扱う幅広い分野である。この授業では特に、文字・日本語史・位相・敬語・語彙といった内容について取り扱い、日本語学の基礎的な知識について理解を深めることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 普段から日本語の言語現象について注意深く観察・考察しておくこと。 毎時授業の振り返り課題を行うので、主体的に復習を行うこと。 次週の授業テーマについて、事前に参考文献、概説書、インターネットなどで調査しておくこと。 欠席者は必ず授業内容を確認しておくこと。 [授業計画] 1.ガイダンス 日本語学とは 2.日本人と名前 3.日本語と日本人 4.日本語の特徴(1) 起源・音声 5.日本語の特徴(2) 文法・語彙・表記 6.言語の位相・方言 7.日本語と文字(1) 漢字 8.日本語と文字(2) 仮名 9.日本語と文字(3) その他 10.敬語(1) 基礎・理論 11.敬語(2) 応用・現実 12.新しい日本語表現 13.ことば遊び				

科目名	日本語学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡墻 裕剛		
[成績評価方法] リアクションペーパー(5%×13回)、授業内での確認課題(35%) ※未提出の課題がある場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。 ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20020 [LJH1-003]

科目名	日本語学概論Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・日本語の文法的・音声的な特徴について適切な情報を選択できる。 ・学校文法の問題点を指摘できる。 ・日本語教育上の立場からの日本語の特徴を説明できる。 [授業概要] 日本語学は日本語の言語現象ならびに関連事象を扱う幅広い分野である。この授業では特に、音声・文法・日本語教育といった内容について取り扱い、日本語学のやや発展的な知識について理解を深めることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 普段から、日本語の言語現象について注意深く観察・考察しておくこと。 毎時授業の振り返り課題を行うので、主体的に復習を行うこと。 次週の授業テーマについて、事前に参考文献、概説書、インターネットなどで調査しておくこと。 欠席者は必ず授業内容を確認しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. 日本語の音声(1) 基礎 3. 日本語の音声(2) 発展 4. オノマトペ(1) 基礎 5. オノマトペ(2) 発展 6. 日本語の文法(1) 学校文法 7. 日本語の文法(2) 動詞の種類 8. 日本語の文法(3) 品詞以外の要素 9. 社会と言語 10. 語用論 11. 日本語教育(1) 現状・歴史・言語言語獲得 12. 日本語教育(2) 実践 13. 言語の情報性				

科目名	日本語学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡墻 裕剛		
[成績評価方法] リアクションペーパー(5%×13回)、授業内での確認課題(35%) ※未提出の課題がある場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。 ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、授業内課題 [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20030 [LJH1-004]

科目名	日本語学講読Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む		講義	
担当者	山口 真輝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 「資料を適切に用いることができる」 1、目的のために適切な辞書を引くことができるようになる。 2、テキストを適切に用いることができるようになる。 3、資料を適切に引用できるようになる。 「調べたいことに応じた調査やまとめができる」 1、『万葉集』の中から目的に応じた用例を集めることができるようになる。 2、集めた用例を整理して特徴を見いだすことができるようになる。 3、調べた結果をまとめて伝えることができるようになる。 [授業概要] 『万葉集』が編纂された奈良時代の日本語(語彙・表記)について学ぶ。 奈良時代の歌集である『万葉集』には見たことがない古語も使われているが、とくに現代語と見た目が変わらない単語も多く使われている。たとえば「恋」という単語がある。念のため古語辞典で調べても「恋・恋心」という現代語と変わらない意味が書かれているだけで現代と同じように見える。ところが、『万葉集』に出てくる「恋」を調べてみると、「恋・恋心」という意味ではあるものの私たちが抱く恋のイメージと必ずしも同じではないことがわかる。このように単語の使われ方を詳しく調べることによって、辞書で調べるだけではわからないニュアンスや当時の常識、共通認識などを知り、歌に対する理解を深める。 また、『万葉集』を書き表すために使われた漢字も、現代とは異なるところがある。『万葉集』を書き表すためにどのように漢字を用いていたのか、見たこともない難しい漢字ではなく、私たちが日常的に使用している漢字を中心に、現在とは別の意味や使われ方を学んでいく。 授業では実際に『万葉集』で使われている単語について調べ、発表してもらう。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で配布する資料をよく読み、必要なら動画を視聴して、毎回課題に取り組む。各回、予習復習合わせて4時間程度。特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うこと。 [授業計画] 1.万葉集を読むにあたって-基礎知識とテキストについて 2.知っているつもりの単語(1)「恋」 3.知っているつもりの単語(2)「形見」 4.万葉集と四季(1)「鹿」 5.万葉集と四季(2)-季節の景物 6.辞書を引く、引用する 7.万葉集での使われ方を調べる(1)-用例を見つける方法 8.万葉集での使われ方を調べる(2)-用例を整理する方法 9.漢字で和歌を書き表す 10.現在の常識と異なる漢字の選択-常用漢字との違い 11.単語をどのような漢字で表しているのか-七夕の歌 12.万葉仮名でわかること 13.まとめ				

科目名	日本語学講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む	講義	
担当者	山口 真輝		
[成績評価方法] 課題の提出(30%)、授業内作業と発表(30%)、レポート(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト・課題には必要に応じてコメントを付けて返却します 質問・疑問等には小テスト内に設けた質問欄、manabaの掲示板等で回答します レポートを実施した場合は、後日コメントを付けて返却します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表およびレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表およびレポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	日本語学講読Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む		講義	
担当者	山口 真輝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 「資料を適切に用いることができる」 1、目的のために適切な辞書を引くことができるようになる。 2、テキストを適切に用いることができるようになる。 3、資料を適切に引用できるようになる。 「調べたいことに応じた調査やまとめができる」 1、『万葉集』の中から目的に応じた用例を集めることができるようになる。 2、集めた用例を整理して特徴を見いだすことができるようになる。 3、調べた結果をまとめて伝えることができるようになる。 [授業概要] 『万葉集』が編纂された奈良時代の日本語(語彙・表記)について学ぶ。 奈良時代の歌集である『万葉集』には見たことがない古語も使われているが、とくに現代語と見た目が変わらない単語も多く使われている。たとえば「恋」という単語がある。念のため古語辞典で調べても「恋・恋心」という現代語と変わらない意味が書かれているだけで現代と同じように見える。ところが、『万葉集』に出てくる「恋」を調べてみると、「恋・恋心」という意味ではあるものの私たちが抱く恋のイメージと必ずしも同じではないことがわかる。このように単語の使われ方を詳しく調べることによって、辞書で調べるだけではわからないニュアンスや当時の常識、共通認識などを知り、歌に対する理解を深める。 また、『万葉集』を書き表すために使われた漢字も、現代とは異なるところがある。『万葉集』を書き表すためにどのように漢字を用いていたのか、見たこともない難しい漢字ではなく、私たちが日常的に使用している漢字を中心に、現在とは別の意味や使われ方を学んでいく。 授業では実際に『万葉集』で使われている単語について調べ、発表してもらう。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で配布する資料をよく読み、必要なら動画を視聴して、毎回課題に取り組む。各回、予習復習合わせて4時間程度。特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うこと。 [授業計画] 1.万葉集を読むにあたって-基礎知識とテキストについて 2.知っているつもりの単語(1)「恋」 3.知っているつもりの単語(2)「形見」 4.万葉集と四季(1)「鹿」 5.万葉集と四季(2)-季節の景物 6.辞書を引く、引用する 7.万葉集での使われ方を調べる(1)-用例を見つける方法 8.万葉集での使われ方を調べる(2)-用例を整理する方法 9.漢字で和歌を書き表す 10.現在の常識と異なる漢字の選択-常用漢字との違い 11.単語をどのような漢字で表しているのか-七夕の歌 12.万葉仮名でわかること 13.まとめ				

科目名	日本語学講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む	講義	
担当者	山口 真輝		
[成績評価方法] 課題の提出(30%)、授業内作業と発表(30%)、レポート(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト・課題には必要に応じてコメントを付けて返却します 質問・疑問等には小テスト内に設けた質問欄、manabaの掲示板等で回答します レポートを実施した場合は、後日コメントを付けて返却します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表およびレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表およびレポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S21820F [LJH2-021]

科目名	日本語学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む	講義	
担当者	山口 真輝		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

『万葉集』を読み、問題点や興味のある点を見つけ出し、実際に資料を使って調べてまとめ、わかりやすく伝えることができる。人の発表を問題意識を持ちながら聞き、質問できる。

[授業概要]

『万葉集』のなかから自分なりに興味のある点を見つけ出し、調べて、発表する。

前半は、講義にて『万葉集』を読むための知識を再確認する。同時に、発表に向けて、何を調べるのか、どのように調べるのか、どうやって発表するのかという方法を学ぶ。毎回、少しずつ発表に向けての準備課題が出されるので、課題をこなすことで発表に備える。

後半は、実際に自分が発表する、あるいは人の発表を聞くことを通して、『万葉集』についての知識を深める。

必須ではないが、前期の授業と併せて受講することが望ましい。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業内容を復習し、出された課題に取り組む。また自分の発表に向けた準備をする。各回、予習復習合わせて4時間程度。特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うこと。

[授業計画]

- 1.万葉集を読む上での注意
- 2.単語について調べる方法
- 3.表記について調べる方法
- 4.資料のまとめ方、発表方法
- 5.発表(1)
- 6.発表(2)
- 7.発表(3)
- 8.発表(4)
- 9.発表(5)
- 10.発表(6)
- 11.発表(7)
- 12.発表(8)
- 13.まとめ

科目名	日本語学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む	講義	
担当者	山口 真輝		
[成績評価方法] 課題の提出 (25%)、他人の発表に対する質問とコメント (25%)、発表・レジュメ・レポート (50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題には必要に応じてコメントをつけて返却します レポートは後日コメントをつけて返却します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表およびレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表およびレポート [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

S21830 [LJH2-022]

科目名	日本語学講読Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む		講義	
担当者	山口 真輝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 『万葉集』を読み、問題点や興味のある点を見つけ出し、実際に資料を使って調べてまとめ、わかりやすく伝えることができる。人の発表を問題意識を持ちながら聞き、質問できる。 [授業概要] 『万葉集』のなかから自分なりに興味のある点を見つけ出し、調べて、発表する。 前半は、講義にて『万葉集』を読むための知識を再確認する。同時に、発表に向けて、何を調べるのか、どのように調べるのか、どうやって発表するのかという方法を学ぶ。毎回、少しずつ発表に向けての準備課題が出されるので、課題をこなすことで発表に備える。 後半は、実際に自分が発表する、あるいは人の発表を聞くことを通して、『万葉集』についての知識を深める。 必須ではないが、前期の授業と併せて受講することが望ましい。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業内容を復習し、出された課題に取り組む。また自分の発表に向けた準備をする。各回、予習復習合わせて4時間程度。特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うこと。 [授業計画] 1.万葉集を読む上での注意 2.単語について調べる方法 3.表記について調べる方法 4.資料のまとめ方、発表方法 5.発表(1) 6.発表(2) 7.発表(3) 8.発表(4) 9.発表(5) 10.発表(6) 11.発表(7) 12.発表(8) 13.まとめ				

科目名	日本語学講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『万葉集』を読む	講義	
担当者	山口 真輝		
[成績評価方法] 課題の提出 (25%)、他人の発表に対する質問とコメント (25%)、発表・レジュメ・レポート (50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題には必要に応じてコメントをつけて返却します レポートは後日コメントをつけて返却します [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表およびレポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表およびレポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表およびレポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表およびレポート [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

S21830F [LJH2-022]

科目名	日本語教育特講Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語		講義	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] 外国人に対する日本語教育の音声・文法について、外国語として考えることを目標とする。				
[授業概要] 日本語教育特講Ⅰは、日本語教員資格取得希望者には必修の科目である。本講義では、前年度に受講済みの日本語学概論の内容を踏まえ、さらに詳しく外国人への日本語教育のための日本語学を取り上げる。次年度からの日本語教授法の授業に備え、外国人にとっての日本語を、その困難点を中心に分野別に整理し、考えることを目標にする。文法の問題も一部取り上げるが、外国人の間違いやすい点を中心に、日本語教員経験のある教員から、実例を通して学ぶ内容になる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 前回の授業内容を復習し、理解してから授業に参加すること。授業外でも、外国人の使う日本語に興味や関心を持つこと。				
[授業計画] 1. はじめに 2. 日本語音声の問題点 3. アクセント・イントネーションの問題点 4. 文法の問題点① 品詞分類 5. 文法の問題点② 動詞の活用形 辞書形 6. 文法の問題点③ 動詞の活用形 て形、た形 7. 文法の問題点④ 助詞 8. 文法の問題点⑤ 主語 9. 文法の問題点⑥ テンス 10. 文法の問題点⑦ 授受表現 11. 文法の問題点⑧ 受け身 12. 文字・表記の問題点① 文字の種類とひらがな、書くことの問題点 13. まとめ				

科目名	日本語教育特講Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語	講義	
担当者	安原 順子		
[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後、試験用紙を返却し、解説する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 試験、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:授業中に指示する。著者名: 出版社名: ISBN:			

科目名	日本語教育特講Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語		講義	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] 外国人に対する日本語教育の音声・文法について、外国語として考えることを目標とする。				
[授業概要] 日本語教育特講Ⅰは、日本語教員資格取得希望者には必修の科目である。本講義では、前年度に受講済みの日本語学概論の内容を踏まえ、さらに詳しく外国人への日本語教育のための日本語学を取り上げる。次年度からの日本語教授法の授業に備え、外国人にとっての日本語を、その困難点を中心に分野別に整理し、考えることを目標にする。文法の問題も一部取り上げるが、外国人の間違いやすい点を中心に、日本語教員経験のある教員から、実例を通して学ぶ内容になる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 前回の授業内容を復習し、理解してから授業に参加すること。授業外でも、外国人の使う日本語に興味や関心を持つこと。				
[授業計画] 1. はじめに 2. 日本語音声の問題点 3. アクセント・イントネーションの問題点 4. 文法の問題点① 品詞分類 5. 文法の問題点② 動詞の活用形 辞書形 6. 文法の問題点③ 動詞の活用形 て形、た形 7. 文法の問題点④ 助詞 8. 文法の問題点⑤ 主語 9. 文法の問題点⑥ テンス 10. 文法の問題点⑦ 授受表現 11. 文法の問題点⑧ 受け身 12. 文字・表記の問題点① 文字の種類とひらがな、書くことの問題点 13. まとめ				

科目名	日本語教育特講Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語	講義	
担当者	安原 順子		
[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験後、試験用紙を返却し、解説する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 試験、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 試験、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)] 書籍名:授業中に指示する。著者名: 出版社名: ISBN:			

科目名	日本語教授法Ⅰ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	日本語教員になるための基礎を学ぶ		講義	
担当者	岡田 由紀子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] ・日本語の授業を行うための基礎知識(日本語教育の歴史、教授法など)を理解し、説明することができる。 ・初級で学習する文法を分析・理解し、学習者の学習段階に合わせた文型の導入・練習方法を考えて教案を書き、実践することができる。 ・よりよい授業を行うために自己点検や、他の人と話し合いを行い、改善案を出すことができる。				
[授業概要] 「日本語教授法Ⅰ－ⅰ」では、日本語の授業を行うための基礎知識を学習した後、日本語の教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』を用い、指導計画の作成や授業の進め方などについて、日本語教員経験のある教員から具体的に学習する。講義だけでなく、項目ごとにグループワークやディスカッションを行うことによって、基礎知識を深め、よい授業をするための方法を考える力を身につける。まとめとして、一人ずつ「文法研究」と「文型の導入」を発表し、振り返りを行う。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4 時間程度。 予習・復習プリントは期日までに提出のこと。				
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 日本語教育の歴史、さまざまな教授法 3. 日本語教育の教科書、教材・教具 4. 初級文型の導入、練習 5. 教案の書き方 6. みんなの日本語初級Ⅰ 1課、2課、3課 7. みんなの日本語初級Ⅰ 4課、5課、6課 8. みんなの日本語初級Ⅰ 7課、8課、9課 9. みんなの日本語初級Ⅰ 10課、11課 10. みんなの日本語初級Ⅰ 12課、13課 11. 文法研究、文型導入 発表準備 12. 文法研究、文型導入 発表 13. 文法研究、文型導入 発表のまとめ				

科目名	日本語教授法Ⅰ－ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	日本語教員になるための基礎を学ぶ	講義	
担当者	岡田 由紀子		
[成績評価方法] 予習・復習プリント、リアクションペーパー(30%)、発表(40%)、受講態度(30%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内または授業後に解説。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1本冊 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196036 [参考書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1翻訳・文法解説英語版 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196043 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1教え方の手引き 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883197347 書籍名:ベーシック日本語教育 著者名:佐々木泰子／編 出版社名:ひつじ書房 ISBN:9784894762855			

科目名	日本語教授法Ⅰ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	日本語の教え方を学ぶ		講義	
担当者	岡田 由紀子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標]				
・日本語の授業を行うための基礎知識(日本語教育の歴史、教授法など)を理解し、説明することができる。 ・初級で学習する文法を分析・理解し、学習者の学習段階に合わせた文型の導入・練習方法を考えて教案を書き、実践することができる。 ・よりよい授業を行うために自己点検や、他の人と話し合いを行い、改善案を出すことができる。				
[授業概要]				
「日本語教授法Ⅰ－ⅱ」では、「日本語教授法Ⅰ－ⅰ」に引き続き、日本語の教科書『みんなの日本語初級Ⅰ』を用い、指導計画の作成や授業の進め方などについて、日本語教員経験のある教員から具体的に学習する。講義だけでなく、項目ごとにグループワークやディスカッションを行うことによって、基礎知識を深め、よい授業をするための方法を考える力を身につける。まとめとして、一人ずつ「文型の導入・練習」を発表し、振り返りを行う。この発表文型は「教授法Ⅱ」で行う模擬授業の前段階のものとなる。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
各回、予習復習合わせて4時間程度。 予習・復習プリントは期日までに提出のこと。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション				
2. みんなの日本語初級Ⅰ 14課、15課				
3. みんなの日本語初級Ⅰ 16課、17課				
4. みんなの日本語初級Ⅰ 18課、19課				
5. みんなの日本語初級Ⅰ 20課 活用のまとめ				
6. みんなの日本語初級Ⅰ 21課 発表準備①				
7. みんなの日本語初級Ⅰ 22課、発表準備②				
8. みんなの日本語初級Ⅰ 23課 発表準備③				
9. みんなの日本語初級Ⅰ 24課 発表準備④				
10. みんなの日本語初級Ⅰ 25課 発表準備⑤				
11. 文型導入、練習 発表①				
12. 文型導入、練習 発表②				
13. 文型導入、練習 発表のまとめ				

科目名	日本語教授法 I – ii	後期	2 単位
サブタイトル	日本語の教え方を学ぶ	講義	
担当者	岡田 由紀子		
[成績評価方法] 予習・復習プリント、リアクションペーパー(30%)、発表(40%)、受講態度(30%)			
[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内または授業後に解説。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]			
学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表			
学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
[この授業と関連する大学全体の教育目標]			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 予習・復習プリント、リアクションペーパー、発表、受講態度			
[教科書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1本冊 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196036			
[参考書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1翻訳・文法解説英語版 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196043 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1教え方の手引き 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883197347			

科目名	日本語教授法Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	模擬実習を通した実践日本語教育		講義	
担当者	岡田 由紀子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標]				
授業計画の一連の流れを理解し、発表を通して、模擬実習の経験を積み、より良い授業実践に改善できる。				
[授業概要]				
日本語教授法Ⅱでは、日本語学概論から、言語学概論、日本語教授法Ⅰで学んだ知識と理論を授業の中でどのように活かせるかを学び、同時に、日本語教育模擬実習への準備として発表も行う。教科書は日本語教授法Ⅰで使用した『みんなの日本語初級Ⅰ』を使用し、授業での教室作業を検討して発表後、その内容について討議する。 留学生や外国人研修生などへの日本語指導経験がある教員が、その経験を活かして、模擬授業の教案作成・発表・討議の際にコメントやアドバイス、実際の指導方法の例を挙げて説明・指導を行う。 教科書の使用法、教授法については日本語教授法Ⅰで講義をしているので、前年度までに教授法Ⅰを履修した学生の受講が望ましい。 4回生の模擬実習のみの受講は認めない。4回生の1年間で「日本語教員養成講座」のすべての単位をまとめて取得することも認めない。(受講可否が不明瞭な場合、1回目の授業に欠席する場合は必ず連絡のこと)学習者役として、留学生も模擬実習に参加する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]				
・各回、予習復習合わせて4時間程度。 教員から特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うこと。 ・発表者は発表日2週間前までに最初の教案を提出し、発表日3日前までに教案修正を終え、発表の許可をとること。				
[授業計画]				
1. オリエンテーション 2. 導入、練習方法 3. 教案の書き方 4. 模擬授業例 5. 模擬実習① 6. 模擬実習② 7. 模擬実習③ 8. 模擬実習④ 9. 模擬実習⑤ 10. 模擬実習⑥ 11. 模擬実習⑦ 12. 模擬実習⑧ 13. 総復習				

科目名	日本語教授法Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	模擬実習を通した実践日本語教育	講義	
担当者	岡田 由紀子		
[成績評価方法] 模擬実習1回(70%)、レポート(15%)、受講態度(15%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・模擬実習前は教案を添削して返却。(直接またはメール) ・模擬実習後は実習についてのコメントをまず授業内で行い、後日コメントシートにまとめたものを発表者に渡す。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 模擬実習、レポート、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1本冊 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196036 [参考書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1翻訳・文法解説英語版 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196043 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1教え方の手引き 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883197347			

科目名	日本語教授法Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	模擬実習を通した実践日本語教育		講義	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] 各自が、模擬実習を実際に経験することを目標とする。				
[授業概要] 日本語教授法Ⅱでは、日本語学概論、言語学概論、日本語教授法Ⅰで学んだ知識と理論を授業の中でどのように生かせるかを、日本語教員経験をもつ教員から具体的に学ぶ。同時に、日本語教育実習への準備としてグループでの発表も行う。教科書は日本語教授法Ⅰで使用した『みんなの日本語初級Ⅰ』を使用し、授業での教室作業をグループで検討して発表後、その内容について討議する。教科書の使用方法、教授法については日本語教授法Ⅰで講義をしているので、前年度までに教授法Ⅰを履修した学生の受講が望ましい。本講義を履修する学生は、日本語実習を併修すること。4回生の模擬実習のみの受講は認めない。また、4回生時に、日本語教員養成講座のすべての単位を取得することも認めない。学習者役として、留学生も模擬実習に参加する。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 発表者の担当する課を事前に読んでから、授業に参加すること。				
[授業計画] 1. 模擬実習の準備 2. 模擬実習の実際 3. 模擬実習 1 4. 模擬実習 2 5. 模擬実習 3 6. 模擬実習 4 7. 模擬実習 5 8. 模擬実習 6 9. 模擬実習 7 10. 模擬実習 8 11. 模擬実習 9 12. 模擬実習 10 13. まとめ				

科目名	日本語教授法Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	模擬実習を通した実践日本語教育	講義	
担当者	安原 順子		
[成績評価方法] 模擬実習(80%)、受講態度(20%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 模擬実習前には教育実習案について、模擬実習後には模擬実習についてコメントし、フィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 模擬実習、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1本冊 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196036 [参考書(ISBN)] 書籍名:授業中に、指示する。 著者名: 出版社名: ISBN:			

科目名	日本語史 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・日本語の歴史的な変遷を理解し、概略を説明できる。 ・個別の術語を適切に選択したり、説明したりできる。 ・特定の文献の名称や資料的価値を説明できる。 [授業概要] 日本語がたどってきた歴史的変遷に理解を深め、日本語における伝統的な言語文化とその特質を知る。授業は主に時代区分に従ってその時代の代表的な文献を紹介した上で、日本語の特徴や言語現象の変遷を解説しする。適宜、受講者に対し設問を設け、能動的な授業への参加を促す。毎時間、問いへの回答と教員への意見・質問等をリアクションペーパーに記述し、その提出によって日常の習熟度を計る。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 毎時で提示される問いに対する回答を提出する。 授業内容について不明点・疑問を探し、各自で調査する。 教員から特段の指示がない場合でも自発的に授業内容の予習復習を行うように。 [授業計画] 1. ガイダンス 日本語史について 2. 言語と日本語の歴史 3. 日本語史概観 奈良時代以前の日本語 4. 奈良時代～平安初期の日本語 5. 平安時代の日本語(1) 古典語 6. 平安時代の日本語(2) 文字・字書 7. 平安時代～鎌倉時代の日本語 8. 鎌倉時代～室町時代の日本語 9. 江戸時代の日本語(1) 近世語 10.江戸時代の日本語(2) 西洋文化の影響 11.近代の日本語(1) 近代語 12.近代の日本語(2) 国語施策 13.現代とこれからの日本語				

科目名	日本語史 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡墻 裕剛		
[成績評価方法] リアクションペーパー(5%×12回)、授業内での確認課題(40%)。 ※未提出の課題がある場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。 ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、確認課題 [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

S21840 [LJH3-011]

科目名	日本語史Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・授業で取り扱った日本語学用語の特徴を適切に説明できる。 ・自ら主体的に情報収集を行える。 ・指定の形式に情報を整えて報告できる。 [授業概要] 日本語史・日本文化上の重要語句について理解を深め、その特徴を学ぶ。授業の具体的な流れとしては、教員が設定する用語について受講者が事前に入念な資料調査を行い、授業時間にグループワークを行ってその内容に関する質問に対する解答を作成するという形式を取る。また、適度に理解度確認のための授業内課題を行う。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 各回のテーマに関連する文献・資料の情報を調査しておく。 学習した内容を復習する。 [授業計画] 1. ガイダンス 授業の進め方(講義) 2. 暦 3. 干支 4. 五十音図 5. いろはうた 6. 数と数え方(講義) 7. 音声 8. アクセント 9. 係り結び 10. 方言と共通語 11. 漢文訓読 12. モーラ(講義) 13. 授業のまとめ				

科目名	日本語史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡墻 裕剛		
[成績評価方法] 提出物(6%×10回)、確認課題(40%) ※未提出の課題がある場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・各回、質問・疑問に対してコメントと解説を行う。 ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 提出物、確認課題 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 提出物、確認課題 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 提出物、確認課題 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 提出物、確認課題			

S21850 [LJH3-012]

科目名	日本語実習	後期	2 単位
サブタイトル	模擬実習	実習	
担当者	安原 順子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
[到達目標] 教壇実習を通して、外国人に教える経験をするを目標とする。			
[授業概要] ・日本語教員養成講座の総まとめとして、教壇実習のための教案を書き、各自が45分×2回の教壇実習を行う。 ・実習では、実習前に何度か実習案について指導を受け、実習後はその内容について受講者全員で討論する。 ・実習においては、以下を取扱うこととする。 ① オリエンテーション ② 授業見学 ③ 授業準備 ④ 模擬授業 ⑤ 教壇実習 ⑥ 実践研修全体総括 ・4回生の実習のみの受講は認めない。また、4回生時に、日本語教員養成講座のすべての単位を取得することも認めない。 ・教壇実習は、一定期間外部の日本語教育機関を使って実施するため、所定の実習費用が発生する。			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 発表グループの担当する課を事前に読んでから、授業に参加すること。			
[授業計画] 1. 教壇実習の準備 2. 教壇実習の実際 3. 教壇実習 学生1 4. 教壇実習 学生2 5. 教壇実習 学生3 6. 教壇実習 学生4 7. 教壇実習 学生5 8. 教壇実習 学生6 9. 教壇実習 学生7 10. 教壇実習 学生8 11. 教壇実習 学生9 12. 教壇実習 学生10 13. まとめ			

科目名	日本語実習	後期	2 単位
サブタイトル	模擬実習	実習	
担当者	安原 順子		
[成績評価方法] 教壇実習(80%)、受講態度(20%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 教壇実習前には教育実習案について、実習後には実習内容についてコメントし、フィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 教壇実習、受講態度 [教科書(ISBN)] 書籍名:【第2版】みんなの日本語初級1本冊 著者名:スリーエーネットワーク／編著 出版社名:スリーエーネットワーク ISBN:9784883196036 [参考書(ISBN)] 書籍名:授業中に、指示する。 著者名: 出版社名: ISBN:			

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 [授業概要] この授業では、日本語の発展に大きな影響を与えた漢字や仮名といった文字・表記に関する先行研究を読み解き、日本語の特徴について理解を深める。授業は、発表者がテーマに沿って調査した内容を他の受講者へと報告するという講義形式で演習を進める。聞き手となる他の受講者も事前に文献を読み要約と疑問点の洗い出しをしておき、発表後には質疑応答に積極的に参加すること。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 ・1年次の概論、入門などの必修科目の内容を復習する。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. 要約の基礎 3. 要約の実践 4. 文献の探し方 5. 漢字研究の基礎 6. 発表の練習 7. 発表準備 8. 発表1 9. 発表2 10. 発表3 11. 発表4 12. 発表5 13. レポートの書き方				

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	岡墻 裕剛		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 〔 参考書(ISBN) 〕			

S20120 [LJH2-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	『源氏物語』若紫巻を読む		演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 [授業概要] この授業では、『源氏物語』若紫巻の輪読を通して、本文読解・調査の方法、問題点の見つけ方、発表・討議の方法やレポートの作り方などを身につける。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 ・1年次の概論、入門などの必修科目の内容を復習する。 [授業計画] 担当教員から作品の概説や参考文献、発表の方法などについて講義を行った後、受講生による発表と討議を中心とした演習形式で授業を行う。 1. 授業の概要、『源氏物語』の概説 2. 日本古典文学作品の調査・発表方法についての説明 3. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(1) 4. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(2) 5. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(3) 6. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(4) 7. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(5) 8. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(6) 9. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(7) 10. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(8) 11. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(9) 12. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(10) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	『源氏物語』若紫巻を読む	演習	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:源氏物語 1 著者名:柳井 滋 出版社名:岩波書店 ISBN:9784003510155 [参考書(ISBN)] 書籍名:源氏物語大成 第一冊 著者名:池田亀鑑 出版社名:中央公論社 ISBN:4124024711 書籍名:定家本源氏物語 若紫 著者名:大河内元冬(監修)、藤本孝一 出版社名:八木書店出版部 ISBN:9784840697705			

S20121 [LJH2-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅰーⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	日本語の文法		演習	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 [授業概要] この演習では、現代日本語の中に存在するさまざまな文法現象に着目し、その文法現象がどのような意味をもっているのか、どのように発生したのか、どのような社会的分布状況があるのかといった問題について考察する。 前期は毎回テーマに沿ってゼミ参加者が順番にまとめを担当し、発表する。基礎知識を得た後、演習参加者全員で討論する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 ・1年次の概論、入門などの必修科目の内容を復習する。 [授業計画] 1. 導入: 日本語の文法現象 2. 「国語」という教科と「日本語教育」 3. 日本語文法の知識の必要性 4. データを分析することの重要性 5. テーマ1: 品詞 6. テーマ2: 活用 7. テーマ3: 語形成 8. テーマ4: 格・とりたて・主題 9. テーマ5: ヴォイス 10. テーマ6: アスペクト 11. テーマ7: テンス 12. テーマ8: 複文 13. ことばの分析とは				

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	日本語の文法	演習	
担当者	橋本 礼子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:現代日本語文法 1ー7 著者名:日本語記述文法研究会編 出版社名:くろしお出版 ISBN:9784874244753ほか 書籍名:日本語文法事典 著者名:日本語文法学会編 出版社名:大修館書店 ISBN:9784469012866 書籍名:国語教師が知っておきたい日本語文法 著者名:山田敏弘 出版社名:くろしお出版 ISBN:978-4874243107			

S20123 [LJH2-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 [授業概要] 近代文学の読みは、書かれた言葉を正しく読み込むことから始まる。 この授業では、樋口一葉の「たけくらべ」を読む。担当者が担当箇所のわからない言葉などを調べた上で、問題点を見出して発表し、ゼミ参加者と質疑応答する。時代背景や社会背景の知識も必要になる。最後に、各自が作品について論じる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 ・1年次の概論、入門などの必修科目の内容を復習する。 [授業計画] 1. 導入、発表担当者決定、樋口一葉について、「たけくらべ」朗読を聴く 2. 「たけくらべ(一)」を読む——発表のしかた、「たけくらべ」論の例 3. 「たけくらべ(二)」を読む 4. 「たけくらべ(三)(四)」を読む 5. 「たけくらべ(五)(六)」を読む 6. 「たけくらべ(七)(八)」を読む 7. 「たけくらべ(九)(十)」を読む 8. 「たけくらべ(十一)(十二)」を読む 9. 「たけくらべ(十三)(十四)」を読む 10. 「たけくらべ(十五)(十六)」を読む 11. 『樋口一葉『たけくらべ』作品論集』から論文紹介 12. 「たけくらべ」を論じる 13. 「たけくらべ」について論をまとめる				

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永渕 朋枝		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(40%)、レポート(60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 書籍名:にごりえ・たけくらべ 著者名:樋口 一葉 出版社名:岩波書店 ISBN:9784003102510 〔 参考書(ISBN) 〕			

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。
- ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。
- ・指定の形式で整理し、発表できる。
- ・作品に親しみ、教養を身につける。

[授業概要]

変体仮名解読アプリやくずし字辞典を使って、古典作品の一節を写本や版本で読む。
古典作品に関する事典、現代語訳や梗概・解説書を用い、作品を選び、その内容を発表する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- 各回、予習復習合わせて2時間程度。
- ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。
- ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。
- ・1年次の概論、入門などの必修科目の内容を復習する。

[授業計画]

1. 導入: 古典作品の範囲
 2. 古典作品を写本・版本で読む①、担当の古典作品の内容を調べる①。
 3. 古典作品を写本・版本で読む②、担当の古典作品の内容を調べる②。
 4. 古典作品を写本・版本で読む③、担当の古典作品の内容を調べる③。
 5. 古典作品を写本・版本で読む④、担当の古典作品の内容を調べる④。
 6. 古典作品を写本・版本で読む⑤、担当の古典作品の内容を調べる⑤。
 7. 古典作品を写本・版本で読む⑥、担当の古典作品を解説する①。
 8. 古典作品を写本・版本で読む⑦、担当の古典作品を解説する②。
 9. 古典作品を写本・版本で読む⑧、担当の古典作品を解説する③。
 10. 古典作品を写本・版本で読む⑨、担当の古典作品を解説する④。
 11. 古典作品を写本・版本で読む⑩、担当の古典作品を解説する⑤。
 12. 古典作品を画像などで鑑賞する①。
 13. 古典作品を画像などで鑑賞する②。
- 随時、機会があれば展示見学、古典芸能鑑賞等を行う。

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(30%)、レポート課題(70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20125 [LJH2-001]

科目名	日本語日本文学演習 I – ii		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] この授業では、日本語の表記研究の一環として、過去の文献や身近に存在する漢字や日本語表現についての調査報告を中心に、受講生主体で演習を進める。発表者以外の参加者も事前に資料を読み疑問点を洗い出しておき、質疑応答に積極的に参加すること。授業では、グループワークや相互批評等を積極的に取り入れる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. プレインストーミング 3. 調査テーマ決定 4. 調査方法を学ぶ 5. 調査 6. 進捗報告1 7. 進捗報告2 8. 発表1 9. 発表2 10. 発表3 11. 発表4 12. 発表5 13. レポートの書き方				

科目名	日本語日本文学演習 I ― ii	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	岡墻 裕剛		
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

S20140 [LJH2-002]

科目名	日本語日本文学演習 I – ii		後期	2 単位
サブタイトル	『源氏物語』若紫巻を読む		演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] この授業では、『源氏物語』若紫巻の輪読を通して、本文読解・調査の方法、問題点の見つけ方、発表・討議の方法やレポートの作り方などを身につける。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 受講生は、割り当てられた『源氏物語』若紫巻の本文について、種々の調査を行なって資料を作成し、その結果を発表する。そして発表をもとに全員で質疑応答などの討議をする。 1. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲1) 2. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲2) 3. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲3) 4. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲4) 5. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲5) 6. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲6) 7. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲7) 8. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲8) 9. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲9) 10. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲10) 11. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲11) 12. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲12) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅰ－Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『源氏物語』若紫巻を読む	演習	
担当者	池田 彩音		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 書籍名:源氏物語 1 著者名:柳井 滋 出版社名:岩波書店 ISBN:9784003510155 〔 参考書(ISBN) 〕 書籍名:源氏物語大成 第一冊 著者名:池田亀鑑 出版社名:中央公論社 ISBN:4124024711 書籍名:定家本源氏物語 若紫 著者名:大河内元冬(監修)、藤本孝一 出版社名:八木書店出版部 ISBN:9784840697705			

S20141 [LJH2-002]

科目名	日本語日本文学演習 I – ii		後期	2 単位
サブタイトル	日本語の文法		演習	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] この演習では、現代日本語の中に存在するさまざまな文法現象に着目し、その文法現象がどのような意味をもっているのか、どのように発生したのか、どのような社会的分布があるのかといった問題について考察する。 ゼミでは演習参加者が順番に発表を担当する。一次資料から具体的なデータを収集して独自の分析を加えて発表し、演習参加者全員で討論する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 1. 導入: 日本語の文法現象 2. 分析の視点 3. 発表と討論: (学生A) 4. 発表と討論: (学生B) 5. 発表と討論: (学生C) 6. 発表と討論: (学生D) 7. 発表と討論: (学生E) 8. 発表と討論: (学生F) 9. 発表と討論: (学生G) 10. 発表と討論: (学生H) 11. 発表と討論: (学生I) 12. 発表と討論: (学生J) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習 I ― ii	後期	2 単位
サブタイトル	日本語の文法	演習	
担当者	橋本 礼子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (30%)、レポート (70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20143 [LJH2-002]

科目名	日本語日本文学演習 I – ii		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] 芥川龍之介、川端康成などの大正期に発表された短篇小説を読み、自分の担当する作品について、問題点を見つけ、発表する。発表者とゼミ参加者とが意見を出し合う中で論を深める。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 1. 導入 2. 発表と討論: 菊池寛 3. 発表と討論: 芥川龍之介 4. 発表と討論: 川端康成 5. 発表と討論: 田村俊子 6. 発表と討論: 岡本綺堂 7. 発表と討論: 佐藤春夫 8. 発表と討論: 広津和郎 9. 発表と討論: 有島武郎 10. 発表と討論: 宇野浩二 11. 発表と討論: 内田百閒 12. 作品をレポートで論じる 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習 I ― ii	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永渕 朋枝		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:日本近代短篇小説選 大正篇 著者名:紅野 敏郎 出版社名:岩波書店 ISBN:9784003119136 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20144 [LJH2-002]

科目名	日本語日本文学演習 I – ii		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献を適切に扱い、知識を身につける。 ・背景などを調べ、問題点を見出して、客観的に評価したり考えたりできるようになる。 ・指定の形式で整理し、発表できる。 ・作品に親しみ、教養を身につける。 ・各分野の文字・表記の規則を知り、読みこなす能力を育てる。 [授業概要] 中世の文学作品を取り上げ、日本及び中国の古典がそれらの作品でどのように表現されているのかを検証する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 1. 導入:中世の文学作品の概要。 2. 模擬演習①(和歌を中心に扱う) 3. 模擬演習②(典拠となる古典を中心に扱う) 4. 模擬演習③(表現手法を中心に扱う) 5. 演習①(個々に指示された和歌の課題を調査する) 6. 演習②(調査結果を発表する) 7. 演習③(個々に指示された典拠の調査をする) 8. 演習④(調査結果を発表する) 9. 演習⑤(個々に指示された表現の調査を行う) 10. 演習⑥(調査結果を発表する) 11. 演習⑦(個々に担当した箇所についてまとめる) 12. 演習⑧(まとめた結果を発表する) 13. 能楽鑑賞、実地踏査等を行う。				

科目名	日本語日本文学演習 I ― ii	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 〔 参考書(ISBN) 〕			

S20145 [LJH2-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 近世芸能、および、その周辺の芸能などを取りあげた論文を読む。 各自論文を1編ずつ担当して、その内容を要約紹介する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する作業を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な学習や作業を行っておく。 [授業計画] 1.近世演劇史をめぐって 2.浄瑠璃の芸能とその周辺 3.歌舞伎の芸能とその周辺 4.発表の方法 5.発表1 6.発表2 7.発表3 8.発表4 9.発表5 10.発表6 11.発表7 12.発表8 13.まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	井上 勝志		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20160 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] この授業では、文字に関する資料・文献・辞書類を使用し、自ら設定した文字に関する調査を行う。前半の授業回ではそのための研究手法のレクチャーを中心とし、後半の授業回では受講者の調査成果に基づく発表について他の受講生を交えた質疑と議論を中心とする。また、上級生の研究発表を聞く機会を予定している。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する作業を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な学習や作業を行っておく。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. 漢字の仕組みを知る 3. 漢字研究の基礎 4. 発表の練習 身近な漢字調べ 5. テーマ決め 6. 進捗報告 7. 発表準備 8. 発表1 9. 発表2 10. 発表3 11. 発表4 12. 発表5 13. レポートの書き方				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	岡墻 裕剛		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20161 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	『無名草子』を読む		演習	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で、内容を整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] この授業では、鎌倉時代初期に成立した『無名草子』の講読を通して、本文読解・調査の方法を身につける。『無名草子』は、平安時代の物語や女性たちについて多く論じられる作品である。そうした論が展開される時代的な背景や、言及される作品や人物について理解を深め、文学史的知識を修得する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に指示する作業(出典調査等)を行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、予備知識を身につけておく。 [授業計画] 担当教員から作品の概説や参考文献、発表の方法などについて講義を行った後、受講生による発表と討議を中心とした演習形式で授業を行う。 1. 授業の概要と導入、『無名草子』の解説 2. 日本古典文学作品研究における参考文献、発表についての説明 3. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(1) 4. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(2) 5. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(3) 6. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(4) 7. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(5) 8. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(6) 9. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(7) 10. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(8) 11. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(9) 12. 受講生の調査・検討結果の発表。それについて質疑応答(10) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	『無名草子』を読む	演習	
担当者	池田 彩音		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:「女」が語る平安文学 著者名:原 豊二 出版社名:和泉書院 ISBN:9784757609808 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:新編日本古典文学全集 無名草子 著者名:久保木哲夫 出版社名:小学館 ISBN:4096580406 書籍名:無名草子: 注釈と資料 著者名:『無名草子』輪読会 出版社名:和泉書院 ISBN:4757602472 書籍名:無名草子評解 著者名:富倉徳次郎 出版社名:有精堂出版 ISBN:4640000995			

S20162 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 謡曲などの古典作品を、室町時代の写本や江戸時代の版本をテキストとして、翻字し、校訂本文を作成し、その内容を調べる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業(専門辞典で調べるなど)を行っておく。 [授業計画] 1. 導入:謡曲を例としたテキストの作成方法について 2. 謡曲を例とした校訂本文の作成方法について 3. 謡曲を例とした内容の調査方法について 4. 中世の古典知について①(特に日本の古典受容を中心に) 5. 中世の古典知について②(特に中国の古典受容を中心に) 6. 選択した作品を翻字する① 7. 選択した作品を翻字する② 8. 選択した作品の表現を吟味する① 9. 選択した作品の表現を吟味する② 10. 選択した作品の校訂本文を作成する① 11. 選択した作品の校訂本文を作成する② 12. 選択した作品に関する研究論文を読む① 13. 選択した作品に関する研究論文を読む② 随時、機会があれば展示見学、古典芸能鑑賞等を行う。				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート課題 (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: □ 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20163 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－i		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 大正時代の文壇作家、文壇外の作家、作家志望の人達、読者についての論文を読み、要旨の書き方や論じ方、論文の批判的な読み方を習得する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する作業を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な学習や作業を行っておく。 [授業計画] 1. 担当決定、要旨の書き方、批判的な読み方 2. 近現代文学文献検索のしかた 3. 大正文壇 4. 新聞連載の「告白小説」の読まれ方 5. 藤村『新生』に嵌め込まれた節子の手紙 6. 藤村『嵐』の評判 7. 藤村の発行した婦人雑誌『処女地』、『処女地』に執筆した無名の女性達 8. 『処女地』に執筆した多様な作家達 9. 伊東英子「凍った唇」 10. 織田やす——初期女性労働運動との結節点—— 11. 戦時下における『処女地』の女性達 12. メディアの勢力と日本近代文学 13. レポート指導、後期担当決定				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永 渕 朋 枝		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20164 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	方言を学ぶ		演習	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] このゼミでは、方言を分析対象として、自分の気づいた「問題」を調べる方法、分析する多様な視点、集めた情報から結論をまとめる論理的思考を学んでいく。 前期は近畿地方の方言についての教科書を輪読し、方言に関する基本的な知識、資料の癖やことばの使用状況などについて学ぶ。ゼミ参加者が持ち回りで文献の内容をまとめて発表する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する作業を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な学習や作業を行っておく。 [授業計画] 1. 導入:ことばの調査 2. 方言と方言学 3. 分析方法1:辞典の活用 4. 分析方法2:言語地図の活用 5. 分析方法3:文芸作品などの活用 6. 発表1(学生a・b) 7. 発表2(学生c・d) 8. 発表3(学生e・f) 9. 発表4(学生g・h) 10. 発表5(学生i・j) 11. 発表6(学生k・l) 12. 発表7(学生m・n) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	方言を学ぶ	演習	
担当者	橋本 礼子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(40%)、レポート(60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出したことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 書籍名:地図で読み解く関西のことば 著者名:岸江信介 出版社名:昭和堂 ISBN:9784812221167 〔 参考書(ISBN) 〕			

S20165 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－i		前期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語・日本文化		演習	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] より実践的に日本語教育を体験するために、マルチメディアを使用し、一定期間オークランド工科大学日本語科との双方向授業を行う。演習では、外国人の日本語の誤用を取り上げ、その教授法などを各自の発表の課題とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する作業を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な学習や作業を行っておく。 [授業計画] 1. 初級を教える 2. 日本語教師の役割/コースデザイン 3. 音声を教える 4. 文法を教える 5. 日本語の誤用 6. 学生Aの発表 7. 学生Bの発表 8. 学生Cの発表 9. 学生Dの発表 10. 学生Eの発表 11. 学生Fの発表 12. 学生Gの発表 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語・日本文化	演習	
担当者	安原 順子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN: 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:大学生と留学生のための論文ワークブック 著者名:浜田 麻里 出版社名:くろしお出版 ISBN:9784874241271			

S20166 [LJH3-001]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 前期演習Ⅱ－ⅰで取りあげた論文に関連した作品を読む。 各自作品を1作ずつ担当して、その内容・魅力・問題点などを紹介する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1.近世演劇とは何か 2.浄瑠璃の読み方 3.歌舞伎の読み方 4.発表の方法 5.発表1 6.発表2 7.発表3 8.発表4 9.発表5 10.発表6 11.発表7 12.発表8 13.まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	井上 勝志		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(40%)、レポート(60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20180 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 現代日本において、漢字という文字は言語活動の場のみならず、地名や人名、情報機器の文字での使用など、社会全体に対して強い影響力をもっている。この授業では、漢字のもつ特殊な性質の一端を明らかにするために、地名に使用される方言的要素を持った漢字を対象に研究を進める。前半の授業回では研究手法のレクチャーを中心とし、後半の授業回では受講者の主体的な調査に基づく成果報告を行う。受講者がそれぞれの興味関心に基づいて具体的な研究文字を設定し、その調査結果を事典項目形式でまとめて蓄積することを目指す。授業では、グループワークや相互批評等を積極的に取り入れる。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. プレインストーミング 3. 調査テーマ決定 4. 調査方法を学ぶ 5. 調査 6. 進捗報告1 話し合い 7. 進捗報告2 問題点の分析 8. 発表1 9. 発表2 10. 発表3 11. 発表4 12. 発表5 13. レポートの書き方				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	岡墻 裕剛		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20181 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	『無名草子』を読む		演習	
担当者	池田 彩音			
〔アクティブラーニング授業〕				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
〔 到達目標 〕 ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 〔 授業概要 〕 この授業では、鎌倉時代初期に成立した『無名草子』の講読を通して、本文読解・調査の方法を身につける。『無名草子』は、平安時代の物語や女性たちについて多く論じられる作品である。そうした論が展開される時代的な背景や、言及される作品や人物について理解を深め、文学史的知識を修得する。 〔 準備学修(予習・復習)の内容・時間 〕 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 〔 授業計画 〕 受講生は、割り当てられた『無名草子』の本文について、種々の調査を行なって資料を作成し、その結果を発表する。そして発表をもとに全員で質疑応答などの討議をする。 1. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲1) 2. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲2) 3. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲3) 4. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲4) 5. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲5) 6. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲6) 7. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲7) 8. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲8) 9. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲9) 10. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲10) 11. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲11) 12. 調査・検討結果の発表。それについての質疑応答(担当範囲12) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『無名草子』を読む	演習	
担当者	池田 彩音		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出すことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 書籍名:「女」が語る平安文学 著者名:原 豊二 出版社名:和泉書院 ISBN:9784757609808 〔 参考書 (ISBN) 〕 書籍名:新編日本古典文学全集 無名草子 著者名:久保木哲夫 出版社名:小学館 ISBN:4096580406 書籍名:無名草子:注釈と資料 著者名:『無名草子』輪読会 出版社名:和泉書院 ISBN:4757602472 書籍名:無名草子評解 著者名:富倉徳次郎 出版社名:有精堂出版 ISBN:4640000995			

S20182 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 卒業論文で扱いたいと思う作品やテーマについて、どのような手順で調査・研究し、何を明らかにしようとするかを考える。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 導入: 作品やテーマの選定について 2. 模擬演習①謡曲作品を読んで、内容理解に努める。 3. 模擬演習②謡曲作品の典故や表現手法について調査する。 4. 模擬演習③謡曲作品の成立背景を考える。 5. 模擬演習④謡曲作品に関する論文を読む。 6. 模擬演習⑤謡曲作品を鑑賞する。 7. 演習①選択した作品を調査し、その梗概を発表する。 8. 演習②選択した作品の伝本等を調査し、発表する。 9. 演習③選択した作品の典故・素材を調査し、発表する。 10. 演習④選択した作品から一部を抜き出して注釈する。 11. 演習⑤選択した作品についての疑問点・問題点を指摘する。 12. 演習⑥疑問点・問題点についてアプローチする。 13. 芸能鑑賞や実地踏査を行う。				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	樹下 文隆		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20183 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 受講生が選んだ作品を読む。発表、討議、レポート作成を積み重ねることによって、新しい読みや問題点を見つけ、論を組み立て、論文を書く力を養う。また、発表者以外の受講生の質問力を養い、討論からさらに新たな論点を見つける。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. テーマ・発表日程の決定(後期の始まる前に、受講生が、調査、分析のできる作品、テーマを選んでおく)。 2. 卒業論文中間発表を聴いて、自分のゼミ論(レポート)や卒論の参考にする(1) 3. 卒業論文中間発表を聴いて、自分のゼミ論(レポート)や卒論の参考にする(2) 4. 学生Aがゼミ論(レポート)のもととなる発表をする。発表時に指摘された、不十分なところ、論の展開の不適切さ等を直して、ゼミ論(レポート)を書く。発表をきいた受講生は必ず一回以上質問する。 5. 学生Bの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 6. 学生Cの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 7. 学生Dの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 8. 学生Eの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 9. 学生Fの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 10. 学生Gの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 11. 学生Hの発表。進め方等は学生Aの時と同じ。 12. ゼミ論の自己チェック方法。問題点の指摘。 13. 自己チェックや指摘をもとに書き直しをしてゼミ論を完成させる。				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	永渕 朋枝		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20184 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	方言を学ぶ		演習	
担当者	橋本 礼子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 自分たちが日常生活のなかで使ったり聞いたりしていることばで、気になりながらも、そのままにしているものはないだろうか。このゼミでは方言を研究対象として、自分の気づいた「問題」を調べる方法、分析する多様な視点、データから結論をまとめる論理的思考を学んでいく。 後期は、実際に自分で集めた資料を分析できるように加工し、多角的な分析を加えて結論を導き出すことに重点を置く。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 導入:分析の視点と方法 2. 資料の加工方法 3. 資料を読み解く方法(発表例) 4. 発表と討論:(学生A) 5. 発表と討論:(学生B) 6. 発表と討論:(学生C) 7. 発表と討論:(学生D) 8. 発表と討論:(学生E) 9. 発表と討論:(学生F) 10. 発表と討論:(学生G) 11. 発表と討論:(学生H) 12. 発表と討論:(学生I) 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	方言を学ぶ	演習	
担当者	橋本 礼子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等 (40%)、レポート (60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等・レポート 〔 教科書 (ISBN) 〕 〔 参考書 (ISBN) 〕			

S20185 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語・日本文化		演習	
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
[到達目標] ・専門分野に関する文献や資料を適切に扱い、読みこなせるようになる。 ・手順を踏んで問題点を見つけ、解決のための方法を考えて自分なりの分析・考察を行える。 ・指定の形式で整理して口頭発表ができる。また質疑応答ができる。 ・論文形式の文章が書けるようになる。 ・作品を鑑賞する。 ・幅広い知識を身につける。 [授業概要] 日本語・日本文化を外国人に教えるために、日本語教育関連の文献を読み、日本語教育用教材・教授法についての幅広い知識を得ることを目指す。また、より実践的に日本語教育を体験するために、マルチメディアを使用し、一定期間オークランド工科大学との双方向授業を行う。演習では、外国人の日本語の誤用を取り上げ、その教授法などを各自の発表の課題とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・事前に担当教員が指示する学習を必ず行っておく。 ・指定の資料や作品、教科書などに前もって目を通し、必要な作業を行っておく。 ・発表やレポート執筆の準備を進めておく。 [授業計画] 1. 書くことを教える 2. 読むことを教える 3. 音声を教える 4. 文法を教える 5. 日本語の誤用 6. 学生Aの発表 7. 学生Bの発表 8. 学生Cの発表 9. 学生Dの発表 10. 学生Eの発表 11. 学生Fの発表 12. 学生Gの発表 13. まとめ				

科目名	日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	外国人に教える日本語・日本文化	演習	
担当者	安原 順子		
〔 成績評価方法 〕 発表・質疑応答等(40%)、レポート(60%) 〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕 授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 メールアドレス 〕 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出したことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-4／日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答等、レポート 〔 教科書(ISBN) 〕 書籍名:授業中に、指示する。 著者名: 出版社名: ISBN: 〔 参考書(ISBN) 〕 書籍名:大学生と留学生のための論文ワークブック 著者名:浜田 麻里 出版社名:くろしお出版 ISBN:9784874241271			

S20186 [LJH3-002]

科目名	日本語日本文学入門Ⅰ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	井上 勝志、大山 範子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本古典文学研究と変体仮名の基礎を身につける。				
[授業概要] 近世版本(『百人一首』)を使って基本的な変体仮名を読む練習をする。古典文学作品の本文作成の過程や原典の調査方法などを通して日本古典文学研究の基礎を学ぶ。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 『百人一首』などの日本古典文学作品の活字本に目を通しておく。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。				
[授業計画] 1.変体仮名入門・日本古典文学研究入門(担当:井上・大山) 2～7.変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (2～7. 担当:井上) 2.1番～20番 3.21番～40番 4.41番～60番 5.61番～80番 6.81番～100番 7.まとめ・試験 8～13古典文学作品を読むために (8～13.担当:大山) 8.古典文学とは? ―活字テキストとその原本― 9.読むための本文を作る(1)「翻字」 10.読むための本文を作る(2)「校訂」 11.本を調べる(1)―装丁・書型など― 12.本を調べる(2)―奥書・刊記など― 13.まとめ・試験 各クラスの授業の進め方は以下の通りとする。 Aクラス:第1回:日本古典文学研究入門・変体仮名入門 第2～7回:古典文学作品を読むために (上記「授業計画」8～13.) 第8～13回:変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (上記「授業計画」2～7.) Bクラス:第1回:変体仮名入門・日本古典文学研究入門 第2～7回:変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (上記「授業計画」2～7.) 第8～13回:古典文学作品を読むために (上記「授業計画」8～13.)				

科目名	日本語日本文学入門Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志、大山 範子		
[成績評価方法] 小テスト(50%)、試験(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストは採点して返却する。試験は、終了後、manabaに正解を掲載する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 小テスト、試験 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 小テスト、試験 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 小テスト、試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 小テスト、試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 小テスト、試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 小テスト、試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 小テスト、試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 小テスト、試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 小テスト、試験 [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20050 [LJH1-006]

科目名	日本語日本文学入門Ⅰ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	大山 範子、井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本古典文学研究と変体仮名の基礎を身につける。				
[授業概要] 近世版本(『百人一首』)を使って基本的な変体仮名を読む練習をする。古典文学作品の本文作成の過程や原典の調査方法などを通して日本古典文学研究の基礎を学ぶ。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 『百人一首』などの日本古典文学作品の活字本に目を通しておく。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。				
[授業計画] 1.変体仮名入門・日本古典文学研究入門(担当:井上・大山) 2～7.変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (2～7. 担当:井上) 2.1番～20番 3.21番～40番 4.41番～60番 5.61番～80番 6.81番～100番 7.まとめ・試験 8～13古典文学作品を読むために (8～13.担当:大山) 8.古典文学とは? ―活字テキストとその原本― 9.読むための本文を作る(1)「翻字」 10.読むための本文を作る(2)「校訂」 11.本を調べる(1)―装丁・書型など― 12.本を調べる(2)―奥書・刊記など― 13.まとめ・試験 各クラスの授業の進め方は以下の通りとする。 Aクラス:第1回:日本古典文学研究入門・変体仮名入門 第2～7回:古典文学作品を読むために (上記「授業計画」8～13.) 第8～13回:変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (上記「授業計画」2～7.) Bクラス:第1回:変体仮名入門・日本古典文学研究入門 第2～7回:変体仮名を読んでみよう～『百人一首』～ (上記「授業計画」2～7.) 第8～13回:古典文学作品を読むために (上記「授業計画」8～13.)				

科目名	日本語日本文学入門Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	大山 範子、井上 勝志		
[成績評価方法] 小テスト(50%)、試験(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テストは採点して返却する。試験は、終了後、manabaに正解を掲載する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 小テストおよび試験 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 小テストおよび試験 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 小テストおよび試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 小テストおよび試験 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 小テストおよび試験 [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 小テストおよび試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 小テストおよび試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 小テストおよび試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 小テストおよび試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 小テストおよび試験 [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20051 [LJH1-006]

科目名	日本語日本文学入門Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	近現代文学入門・日本語学入門		講義	
担当者	永渕 朋枝、橋本 礼子			
〔アクティブラーニング授業〕				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
〔 到達目標 〕 近現代文学と日本語学の基礎知識を習得し、発表を行い、レポートを書けるようになる。				
〔 授業概要 〕 近現代文学(永渕朋枝担当)と日本語学(橋本礼子担当)の基礎知識を学び、発表を行い、レポートを書く。近現代文学では、作品を様々な視点で読む読み方、調べ方を学ぶ。日本語学では、身近な例を参照しながら、日本語学的な見方や分析のしかたを学ぶ。基礎演習と演習Ⅰの橋渡しとなる内容を学ぶ。				
〔 準備学修(予習・復習)の内容・時間 〕 ・各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・基礎演習で学んだ内容を復習しておくこと。 ・日本文学や日本語学に関する図書を探して読んでおくこと。				
〔 授業計画 〕 1. 導入:近現代文学、日本語学(担当:永渕、橋本) 2. 近現代文学の発表の方法と論じ方(2～7. 担当:永渕) 3. 近現代文学のレポートの書き方と文献の調べ方 4. 近現代文学の視点1:言葉(グループ発表1) 5. 近現代文学の視点2:人物・周辺(グループ発表2) 6. 近現代文学の視点3:作品比較(グループ発表3) 7. レポートについて質問、レポートのチェック項目【近現代文学レポート提出】 8. 日本語学の発表の方法とレポートの書き方(8～13. 担当:橋本) 9. さまざまな辞典・事典 10. 日本語学の視点1:音声・音韻(グループ発表1) 11. 日本語学の視点2:語彙・文法(グループ発表2) 12. 日本語学の視点3:文字・表記(グループ発表3) 13. 推敲と校正【日本語学レポート提出】				
各クラスの授業の進め方は以下の通りとする。 Aクラス:第1回:日本語学導入、近現代文学導入 第2～7回:日本語学(「授業計画」8～13.)、レポート 第8～13回:近現代文学(「授業計画」2～7.)、レポート Bクラス:第1回:近現代文学導入、日本語学導入 第2～7回:近現代文学(「授業計画」2～7.)、レポート 第8～13回:日本語学(「授業計画」8～13.)、レポート				

科目名	日本語日本文学入門Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	近現代文学入門・日本語学入門	講義	
担当者	永渕 朋枝、橋本 礼子		
[成績評価方法] 近現代文学の発表・質疑応答・レポート(50%) 日本語学の発表・質疑応答・レポート(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20060 [LJH1-007]

科目名	日本語日本文学入門Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	近現代文学入門・日本語学入門		講義	
担当者	橋本 礼子、永渕 朋枝			
〔アクティブラーニング授業〕				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
〔到達目標〕 近現代文学と日本語学の基礎知識を習得し、発表を行い、レポートを書けるようになる。				
〔授業概要〕 近現代文学(永渕朋枝担当)と日本語学(橋本礼子担当)の基礎知識を学び、発表を行い、レポートを書く。近現代文学では、作品を様々な視点で読む読み方、調べ方を学ぶ。日本語学では、身近な例を参照しながら、日本語学的な見方や分析のしかたを学ぶ。基礎演習と演習Ⅰの橋渡しとなる内容を学ぶ。				
〔準備学修(予習・復習)の内容・時間〕 ・各回、予習復習合わせて2時間程度。 ・基礎演習で学んだ内容を復習しておくこと。 ・日本文学や日本語学に関する図書を探して読んでおくこと。				
〔授業計画〕 1. 導入:近現代文学、日本語学(担当:永渕、橋本) 2. 近現代文学の発表の方法と論じ方(2～7. 担当:永渕) 3. 近現代文学のレポートの書き方と文献の調べ方 4. 近現代文学の視点1:言葉(グループ発表1) 5. 近現代文学の視点2:人物・周辺(グループ発表2) 6. 近現代文学の視点3:作品比較(グループ発表3) 7. レポートについて質問、レポートのチェック項目【近現代文学レポート提出】 8. 日本語学の発表の方法とレポートの書き方(8～13. 担当:橋本) 9. さまざまな辞典・事典 10. 日本語学の視点1:音声・音韻(グループ発表1) 11. 日本語学の視点2:語彙・文法(グループ発表2) 12. 日本語学の視点3:文字・表記(グループ発表3) 13. 推敲と校正【日本語学レポート提出】				
各クラスの授業の進め方は以下の通りとする。 Aクラス:第1回:日本語学導入、近現代文学導入 第2～7回:日本語学(「授業計画」8～13.)、レポート 第8～13回:近現代文学(「授業計画」2～7.)、レポート Bクラス:第1回:近現代文学導入、日本語学導入 第2～7回:近現代文学(「授業計画」2～7.)、レポート 第8～13回:日本語学(「授業計画」8～13.)、レポート				

科目名	日本語日本文学入門Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	近現代文学入門・日本語学入門	講義	
担当者	橋本 礼子、永渕 朋枝		
[成績評価方法] 近現代文学の発表・質疑応答・レポート(50%) 日本語学の発表・質疑応答・レポート(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中の、教員・学生間でのインタラクションを以てフィードバックとする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表・質疑応答・レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20061 [LJH1-007]

科目名	日本語表現 I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	島田 哲朗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 日本の伝統的な言語活動の所産としての古典の理解を通して、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる基礎的な力をつける。 [授業概要] 古文と漢文の購読のための基礎事項の理解 古典としての古文と漢文を読む能力を養うために古典文法と漢文句法の基礎を理解する。その上で、代表的な古文・漢文を読む。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ○各回、予習復習合わせて4時間程度。 ○授業用の作品について、予習・復習をしっかりとすること。特に教員採用試験受験予定者は本科目を受講し、受験対策とすることが望ましい。 [授業計画] 1. 古典文法・漢文句法の確認① 2. 古典文法・漢文句法の確認② 3. 「伊勢物語」「土佐日記」「方丈記」を中心に中古期の文学表現を読む。① 4. 「論語」「孟子」を中心に漢文を読む。① 5. 「伊勢物語」「土佐日記」を中心に「方丈記」を中心に中古期の文学表現を読む。② 6. 「論語」「孟子」を中心に漢文を読む。② 7. 「伊勢物語」「土佐日記」を中心に「方丈記」を中心に中古期の文学表現を読む。③ 8. 「論語」「孟子」を中心に漢文を読む。③ 9. 「伊勢物語」「土佐日記」を中心に「方丈記」を中心に中古期の文学表現を読む。④ 10. 「論語」「孟子」を中心に漢文を読む。④ 11. 「伊勢物語」「土佐日記」を中心に「方丈記」を中心に中古期の文学表現を読む。⑤ 12. 「論語」「孟子」を中心に漢文を読む。⑤ 13. まとめ				

科目名	日本語表現 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	島田 哲朗		
[成績評価方法] 毎週の課題(30%)、小テスト(20%)、レポート(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題を課した場合は、採点添削して返却する。 レポートは原則として返却しない。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 毎週の課題・小テスト・レポート [教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

科目名	日本語表現Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	島田 哲朗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 「日本語の表現」において、「読む・書く・話す・聞く」それぞれの分野について、より高い能力を獲得し、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができるようになる。 [授業概要] 論理的文章の読解 近代以降、現代にいたる代表的な評論、エッセイを読み、文章の構成の分析・読解と同時に、論理的な思考に基づく日本語表現について考える。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ○各回、予習復習合わせて4時間程度。 ○授業用の作品について、予習・復習をしっかりとすること。特に教員採用試験受験予定者は本科目を受講し、受験対策とすることが望ましい。 [授業計画] 1. 言語表現に関する哲学的な評論・エッセイ(内田樹等)を読み、内容についてレポートする。 2. 1時間目の課題レポートを相互に読み、評価・感想を討議する。 3. 2時間目に出てきた言語表現の視点から短詩系文学(谷川俊太郎等)を読み、内容についてレポートする。 4. 3時間目のレポートを相互に読み、評価・感想を討議する。 5. 4時間目に出てきた言語表現の視点から短詩系文学(俳句・短歌等)を読み、内容についてレポートする。 6. 5時間目のレポートを相互に読み、評価・感想を討議する。 7. 文学的な評論・エッセイを読み、表現の主題についてレポートする。① 8. 文学的な評論・エッセイを読み、表現の主題についてレポートする。② 9. 7・8時間目のレポートを相互に読み、評価・感想を討議する。 10. 社会的・歴史的な評論・エッセイを読み、文学的表現との違いについてレポートする。 11. 受講者自身が身の回りの話題でエッセイを書き、相互に評価感想を討議する。① 12. 受講者自身が身の回りの話題でエッセイを書き、相互に評価感想を討議する。② 13. まとめ				

科目名	日本語表現Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	島田 哲朗		
[成績評価方法] 毎週の課題(30%)、小テスト(20%)、レポート(50%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ○授業で課した課題は添削・採点し翌週の授業で返却する。また、学生相互に読み合わせて評価する教材として使用する。 ○レポートは原則として返却しない。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 毎週の課題、小テスト、レポート			
[教科書 (ISBN)] [参考書 (ISBN)]			

科目名	日本語文法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	岡墻 裕剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他	ピアレビュー	実務経験のある教員による授業		
[到達目標] ・複数の立場からの理解を深め、日本語の文法の特徴について説明できる ・学校文法についてその問題点を指摘できる ・類似した日本語表現の微細な違いを説明できる ・指定の形式に情報を整理し、他者へと報告できる [授業概要] この授業では、普段無意識に使っている日本語の文法について、客観的な視点からその構造を読み解くことを目的とする。授業は教員による講義と受講生を交えた議論・グループワーク・発表などで構成する。事前配付のレジュメをよく読み、そこで提示される問いについての回答を前もって用意してから参加する。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 教員からの特別の指示がなくとも、概説書やインターネットなどで自主的に予習復習を行うこと。 授業の前には事前に配布されたレジュメをよく読み、提示された問いについてよく考えておく。また、後半回は必要な小レポートを作成する。 欠席者は必ず授業内容を確認しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス 2. 品詞分類 3. 文の構造と順序 4. 課題1 5. 名詞 6. 動詞 7. 課題2 8. 形容詞・形容動詞 9. 課題3 10. その他の品詞 11. 課題4 12. 課題5 13. まとめ				

科目名	日本語文法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	岡墻 裕剛		

〔 成績評価方法 〕

授業中の行動(提出物、議論への参加度合いなど:50%)、授業内での確認課題(30%)、レポート(20%)
※未提出の課題がある場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。

〔 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 〕

- ・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。
- ・また、manabaを用いて随時フィードバックする。

〔 オフィスアワー(質問等の受付方法) 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 メールアドレス 〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔 この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) 〕

学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。

成績評価方法: 確認課題、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。

成績評価方法: 確認課題、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。

成績評価方法: 確認課題、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。

成績評価方法: 授業中の活動、レポート

学科DP番号／DP内容: 日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。

成績評価方法: 授業中の活動、レポート

〔 この授業と関連する大学全体の教育目標 〕

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 授業中の活動、確認課題、レポート

〔 教科書(ISBN) 〕

S21800 [LJH2-019]

科目名	日本語文法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	橋本 礼子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
[到達目標] 古典語の文法的特徴を、現代日本語と関連づけて説明することができる。 文法史の分析方法を知り、日本語文法の変化を理解する。 [授業概要] この授業では、現代の日本語だけでなく古典の日本語も視野に入れて、文法現象の理解を深める。文の構造、活用、文法カテゴリーなどに分け、文法史の分析手法によって日本語の文法現象のどのようなことがわかるのかを考える。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 中学校レベルの口語文法(現代日本語)、高校レベルの古典文法の知識を確実にしておくこと。 教科書の該当ページについて、必ず事前に読み、取り組んでおくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。 [授業計画] 1. 導入:総論 2. 上代の語構成:「サケ」と「サカヤ」 3. 中古の訓点資料:漢文と日本語文法 4. 活用1 動詞の活用、形容詞・形容動詞の活用 5. 活用2 活用の変化(一段化) 6. 係り結びと準体句 7. 文法カテゴリー:格 8. 文法カテゴリー:ヴォイス 9. 文法カテゴリー:アスペクト 10. 文法カテゴリー:テンス 11. 文法カテゴリー:モダリティ 12. 現代の文法変化・分析的傾向 13. 敬語文法の変化			

科目名	日本語文法Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	橋本 礼子		
[成績評価方法] 授業中課題(60%)、レポート(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中課題や質問については授業中にフィードバックする。 メールやmanabaの掲示板などでの質問も受け付ける。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 授業中課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 授業中課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 授業中課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 授業中課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 授業中課題・レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 授業中課題・レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題・レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中課題・レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:ワークブック 日本語の歴史 著者名:岡崎 友子 出版社名:くろしお出版 ISBN:9784874247068 [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学概論 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	樹下 文隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 著名な古典に取材した謡曲作品を読み、古典文学解釈のさまざまな側面に接することで、日本の文学表現が前代の作品の影響を受けて重層的に構築されてきたことを理解する。 [授業概要] 『伊勢物語』に取材した謡曲、『源氏物語』に取材した謡曲、『平家物語』に取材した謡曲を、それぞれ1曲ずつ原典との対比で読み解き、ビデオ鑑賞も踏まえて、謡曲で加味されたテーマ等について考える。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に配布した資料を読み、原典と謡曲で、内容がどのように変化しているのかを考える。レポート課題に取り組み、他の人とレポートを相互に評価し合う。質問や批判に対応する。 各回、予習復習併せて4時間程度。 [授業計画] 1. 謡曲と『伊勢物語』 2. 『伊勢物語』を典拠とした謡曲を読む① 3. 『伊勢物語』を典拠とした謡曲を読む② 4. 『伊勢物語』を典拠とした謡曲を読む③ 5. 謡曲と『源氏物語』 6. 『源氏物語』を典拠とした謡曲を読む① 7. 『源氏物語』を典拠とした謡曲を読む② 8. 『源氏物語』を典拠とした謡曲を読む③ 9. 謡曲と『平家物語』 10. 『平家物語』を典拠とした謡曲を読む① 11. 『平家物語』を典拠とした謡曲を読む② 12. 『平家物語』を典拠とした謡曲を読む③ 13. 授業のまとめ。古典知の意義について				

科目名	日本文学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	樹下 文隆		
[成績評価方法] レポート(60%。相互評価の内容を含む)と試験(40%)により評価する。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問のやりとりは、アンケート用紙で随時行う。レポートは複数回設定し、フィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: レポート・試験 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート・試験 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート・試験 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S20000 [LJH1-001]

科目名	日本文学概論Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	井上 勝志			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 注釈の意義・歴史とその実際について習得する。 [授業概要] 古典文学作品と現代人との間に横たわる時間的経過によって作品理解が行き届かないこともある。すでに成立している古典文学がすり寄ってきてくれることはあり得ないので、我々がその距離を縮める必要がある。そのための注釈のあり方について学ぶ。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 興味のある古典文学作品を注釈書で読んでおくことが望ましい。 教員から特段の指示がない場合でも、自発的に授業内容の予習復習を行うようにする。 [授業計画] 1.古典文学を読む意味と注釈 2.注釈とは何か 3.古代の注釈 4.中世の注釈―源氏注1― 5.中世の注釈―源氏注2― 6.中世の注釈―古今注― 7.中世の注釈―伊勢注― 8.中世の注釈―中世日本紀― 9.近世の注釈―概要― 10.近世の注釈―北村季吟― 11.近世の注釈―契沖― 12.近世の注釈―賀茂真淵― 13.近世の注釈―本居宣長―				

科目名	日本文学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	井上 勝志		
[成績評価方法] レポート①(50%)、レポート②(50%)。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・授業中レポートに対してコメントする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	上代～中古の文学史の流れ		講義	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 1、日本古典文学作品を読み、その特徴や面白さについて知り、説明できる。 2、作品の同時代的な背景や、影響関係などを正しく把握し、説明できる。 3、自分の作品の読みや考察を、根拠をもとにわかりやすく説明できる。 [授業概要] 日本文学史Ⅰでは、文学の発生から平安時代末までの文学を対象とする。このうち一般の文学史で言う上代および中古を、講義で扱う範囲とする。具体的な作品をいくつか取り上げ、本文を読みながら、ジャンル、内容、影響関係など、その特徴を把握する。最終的には、受講生自身がそれらを他者にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 授業で取り上げるジャンル・作品・人物について、文学事典・歴史事典等によってその概要を把握しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス、日本古典文学史の概要 2. 万葉集 3. 古事記、日本書紀、風土記 4. 古今和歌集、土佐日記 5. 竹取物語 6. 伊勢物語、大和物語 7. うつほ物語、落窪物語 8. 蜻蛉日記、和泉式部日記 9. 紫式部日記、和漢朗詠集 10. 源氏物語 11. 枕草子 12. 大鏡 13. まとめ				

科目名	日本文学史 I	前期	2 単位
サブタイトル	上代～中古の文学史の流れ	講義	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 課題(各回、授業内と授業後に課す)(40%)、期末レポート(60%)による。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内やmanabaを用いてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、期末レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:適宜資料を配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅰ		前期	2 単位
サブタイトル	上代～中古の文学史の流れ		講義	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 1、日本古典文学作品を読み、その特徴や面白さについて知り、説明できる。 2、作品の同時代的な背景や、影響関係などを正しく把握し、説明できる。 3、自分の作品の読みや考察を、根拠をもとにわかりやすく説明できる。 [授業概要] 日本文学史Ⅰでは、文学の発生から平安時代末までの文学を対象とする。このうち一般の文学史で言う上代および中古を、講義で扱う範囲とする。具体的な作品をいくつか取り上げ、本文を読みながら、ジャンル、内容、影響関係など、その特徴を把握する。最終的には、受講生自身がそれらを他者にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 授業で取り上げるジャンル・作品・人物について、文学事典・歴史事典等によってその概要を把握しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス、日本古典文学史の概要 2. 万葉集 3. 古事記、日本書紀、風土記 4. 古今和歌集、土佐日記 5. 竹取物語 6. 伊勢物語、大和物語 7. うつほ物語、落窪物語 8. 蜻蛉日記、和泉式部日記 9. 紫式部日記、和漢朗詠集 10. 源氏物語 11. 枕草子 12. 大鏡 13. まとめ				

科目名	日本文学史 I	前期	2 単位
サブタイトル	上代～中古の文学史の流れ	講義	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 課題(各回、授業内と授業後に課す)(40%)、期末レポート(60%)による。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内やmanabaを用いてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、期末レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:適宜資料を配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	中古～中世文学の流れ・展開		講義	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 1、日本古典文学作品を読み、その特徴や面白さについて知り、説明できる。 2、作品の同時代的な背景や、影響関係などを正しく把握し、説明できる。 3、自分の作品の読みや考察を、根拠をもとにわかりやすく説明できる。 [授業概要] 日本文学史Ⅱでは、中古文学の源氏物語からの影響を軸に据えつつ、平安時代後期から鎌倉時代の作品を主として扱う。具体的な作品をいくつか取り上げ、本文を読みながら、ジャンル、内容、影響関係など、その特徴を把握する。最終的には、受講生自身がそれらを他者にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 授業で取り上げるジャンル・作品・人物について、文学事典・歴史事典等によってその概要を把握しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス、日本古典文学史の流れ 2. 源氏物語 3. 更級日記、浜松中納言物語 4. 夜の寝覚、狭衣物語 5. 栄花物語 6. 今昔物語集 7. 方丈記 8. 平家物語 9. 新古今和歌集 10. 無名草子 11. 徒然草 12. 奥の細道 13. まとめ				

科目名	日本文学史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	中古～中世文学の流れ・展開	講義	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 課題(各回、授業内と授業後に課す)(40%)、期末レポート(60%)による。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内やmanabaを用いてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、期末レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:適宜資料を配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル	中古～中世文学の流れ・展開		講義	
担当者	池田 彩音			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 1、日本古典文学作品を読み、その特徴や面白さについて知り、説明できる。 2、作品の同時代的な背景や、影響関係などを正しく把握し、説明できる。 3、自分の作品の読みや考察を、根拠をもとにわかりやすく説明できる。 [授業概要] 日本文学史Ⅱでは、中古文学の源氏物語からの影響を軸に据えつつ、平安時代後期から鎌倉時代の作品を主として扱う。具体的な作品をいくつか取り上げ、本文を読みながら、ジャンル、内容、影響関係など、その特徴を把握する。最終的には、受講生自身がそれらを他者にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて4時間程度。 授業で取り上げるジャンル・作品・人物について、文学事典・歴史事典等によってその概要を把握しておくこと。 [授業計画] 1. ガイダンス、日本古典文学史の流れ 2. 源氏物語 3. 更級日記、浜松中納言物語 4. 夜の寝覚、狭衣物語 5. 栄花物語 6. 今昔物語集 7. 方丈記 8. 平家物語 9. 新古今和歌集 10. 無名草子 11. 徒然草 12. 奥の細道 13. まとめ				

科目名	日本文学史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	中古～中世文学の流れ・展開	講義	
担当者	池田 彩音		
[成績評価方法] 課題(各回、授業内と授業後に課す)(40%)、期末レポート(60%)による。 [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内やmanabaを用いてフィードバックを行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-3／日本語・日本文学および日本文化の研究を通して、「読む・書く・話す・聞く」について高い能力を獲得している。 成績評価方法: 課題、期末レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 課題、期末レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 課題、期末レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題、期末レポート [教科書(ISBN)] 書籍名:適宜資料を配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 明治文学を中心とした、日本近現代文学史の知識を身につけ、日本文学に関する独自の視点を見出し、それを伝えられることを目標とする。 [授業概要] 明治の文学史について講義する。時代の中で文学が描かれてきたことに留意して、明治の作家・作品を、歴史的・体系的に解説する。知識を得るだけでなく、暗唱、筆写、続編作成、映像等さまざまな角度から、日本近現代の文学を捉え、意見を述べ合い、小レポートに書く。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習復習合わせて4時間程度。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。 [授業計画] 1. 導入、文学と映像 2. 啓蒙期の思想と文学 3. 近代文学の基礎 4. 紅露時代 5. 明治20年代の文学 6. 樋口一葉 7. 明治30年代の浪漫主義文学 8. 明治30年代の作品を読む 9. 自然主義文学 10. 森鷗外 11. 夏目漱石 12. 耽美派の文学 13. 総復習、最終レポートをまとめる				

科目名	日本文学史Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(60%)、最終レポート(40%)。提出は必須) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

科目名	日本文学史Ⅲ		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 明治文学を中心とした、日本近現代文学史の知識を身につけ、日本文学に関する独自の視点を見出し、それを伝えられることを目標とする。 [授業概要] 明治の文学史について講義する。時代の中で文学が描かれてきたことに留意して、明治の作家・作品を、歴史的・体系的に解説する。知識を得るだけでなく、暗唱、筆写、続編作成、映像等さまざまな角度から、日本近現代の文学を捉え、意見を述べ合い、小レポートに書く。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習復習合わせて4時間程度。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。 [授業計画] 1. 導入、文学と映像 2. 啓蒙期の思想と文学 3. 近代文学の基礎 4. 紅露時代 5. 明治20年代の文学 6. 樋口一葉 7. 明治30年代の浪漫主義文学 8. 明治30年代の作品を読む 9. 自然主義文学 10. 森鷗外 11. 夏目漱石 12. 耽美派の文学 13. 総復習、最終レポートをまとめる				

科目名	日本文学史Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(60%)、最終レポート(40%)。提出は必須) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S21200F [LJH2-007]

科目名	日本文学史Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大正文学から現代文学までを中心に、日本近現代文学史の知識を身につけ、日本文学に関する独自の視点を見出し、それを伝えられることを目標とする。				
[授業概要] 大正以降の文学史について講義する。時代の中で文学が描かれてきたことに留意して、近現代の作家・作品を、歴史的・体系的に解説する。知識を得るだけでなく、暗唱、筆写、続編作成、映像等さまざまな角度から、日本近現代の文学を捉え、意見を述べ合い、小レポートに書く。				
[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習復習合わせて4時間程度。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。				
[授業計画] 1. 日本近代における時代と文学、近代文学作品の冒頭 2. 白樺派の文学 3. 新現実主義の文学 4. 芥川龍之介 5. 映像と文学 6. プロレタリア文学 7. 芸術派の文学 8. 文化統制下の文学 9. 戦後の文学 10. 現代の文学 11. 近現代の文学(映像化作品) 12. 総復習 13. 近現代の文学から現代社会を考える				

科目名	日本文学史Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(60%)、最終レポート(40%)。提出は必須) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S21210 [LJH2-008]

科目名	日本文学史Ⅳ		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	永渕 朋枝			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		
[到達目標] 大正文学から現代文学までを中心に、日本近現代文学史の知識を身につけ、日本文学に関する独自の視点を見出し、それを伝えられることを目標とする。 [授業概要] 大正以降の文学史について講義する。時代の中で文学が描かれてきたことに留意して、近現代の作家・作品を、歴史的・体系的に解説する。知識を得るだけでなく、暗唱、筆写、続編作成、映像等さまざまな角度から、日本近現代の文学を捉え、意見を述べ合い、小レポートに書く。 [準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・各回、予習復習合わせて4時間程度。 ・授業で学んだ作品を中心に、日本近現代文学の作品を読む。 [授業計画] 1. 日本近代における時代と文学、近代文学作品の冒頭 2. 白樺派の文学 3. 新現実主義の文学 4. 芥川龍之介 5. 映像と文学 6. プロレタリア文学 7. 芸術派の文学 8. 文化統制下の文学 9. 戦後の文学 10. 現代の文学 11. 近現代の文学(映像化作品) 12. 総復習 13. 近現代の文学から現代社会を考える				

科目名	日本文学史Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	永渕 朋枝		
[成績評価方法] 質疑応答・小レポート(60%)、最終レポート(40%)。提出は必須) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質疑応答についてはその場で、小レポート等は次の授業でフィードバックする。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 質疑応答等・小レポート・最終レポート [教科書(ISBN)] [参考書(ISBN)]			

S21210F [LJH2-008]

科目名	文献資料学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	長田 あかね		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他	manabaを活用した課題レポートの提出と評価、小テストとミニツツメンバーの提出と授業でのフィードバック	実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- 1.世界の書物史の概略を学び、日本の和書の位置付けを知る。
- 2.日本の古典文学研究に必要な和書の特徴について、書誌学的方面からの理解を深める。
- 3.和書の書誌調査の方法を習得して、実際に取り扱えるようになる。

[授業概要]

文献資料は学問の諸分野によって、その種類や特性が異なる。この授業では、日本の古典文学研究に必要な文献資料を対象に、その種類、特徴、調査方法について講義を行う。特に近代以前の日本でつくられた和書(和本・和装本)を重点的に取り上げ、その歴史や多様な形態について学ぶとともに、和書の取り扱いや書誌データの取り方に関する基礎的知識を習得できるようにする。また、世界の書物史の概略を学び、日本の和書の相対的な位置づけについても解説する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

定期的に授業内容を問う小テストを行うので、きちんと復習し、理解不足がないか確認した上で授業に臨むこと。また、課題レポートは、期限までに仕上げて提出すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を要する。

[授業計画]

- 1.文献資料とは何か
- 2.世界の書物史①紙の発明と伝播
- 3.世界の書物史②印刷技術の発明と発展
- 4.世界の書物史③書物の形態の変遷
- 5.和書の種類と分類
- 6.和書の装訂
- 7.和書の書型
- 8.和書の各部
- 9.和書の書名
- 10.日本の版本
- 11.和書の調査方法①書誌調査の説明
- 12.和書の調査方法②書誌調査の実践
- 13.まとめ

科目名	文献資料学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	長田 あかね		
[成績評価方法] 小テスト(20%)、課題レポート(40%)、試験(40%) [課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] ・小テストは、添削して解説とともに返却します。 ・課題レポートは、manabaレポートを活用して評価・解説をします。 ・試験の解答と解説は、manabaにて公開します。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号／DP内容: 日文1-2／日本語、日本文学、日本文化のいずれかに関する深い専門的知識を修得している。 成績評価方法: 試験、課題レポート、小テスト 学科DP番号／DP内容: 日文2-2／収集した情報を客観的に分析し、多様な観点から物事を判断し、日本語、日本文学、日本文化に関する独自の新しい視点・解釈を見出だすことができる。 成績評価方法: 試験、課題レポート 学科DP番号／DP内容: 日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。 成績評価方法: 試験、課題レポート [この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、課題レポート 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験、課題レポート、小テスト 教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 試験、課題レポート、小テスト [教科書(ISBN)] 書籍名:講義時にレジュメ・資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN: [参考書(ISBN)]			